3—623

顧問 大隈重信　會長 島田三郎
同 森村市左衛門　副會長 安部磯雄

廓清

第六巻 第四號

□廓清時言……伊藤江南
■何ぞ女供養をせざる……角谷和市
□性慾問題と基督教……三高教授 栗原基
■良妻賢母の變遷……文部大臣 高田博士
■米國に於ける醜業婦問題……哲學博士 有馬純清
□子寳の説……農法學博士 新渡戸稲造
■青年女子の諸問題……女子大學々監 麻生正藏
□民族衛生論……廓清會理事 油谷治郎七
■離婚の相談に答ふ……江南生
□人としての女……成女學校長 宮田脩
■宗教家の任務……緒方庸雄
■獨逸魂と日本魂……家田作吉
□ソロモンの箴言を讀む……救世軍大佐 山室軍平
■たが罪……山根菊子
□廓清春秋……河合北洲

東京 廓清會本部 發行

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

◎強き歯は、
健康を生み、勇氣を生む。
歯牙の衛生に好適せる

ライオン歯磨を

愛用せらるゝ諸君が、常に頭腦
明晰にして元氣なるは之が爲めなり。

ライオン歯磨
ライオン石鹸
本舗　小林富次郎

(344—4)

廓清
THE PURITY.
第六巻第四號
大正五年四月號

廓清時言

自由と而して死を奪ふ

近來何ぞ情死の頻々たるや、最近十日ばかりの間に五組の情死者を吉原の一角に於て出すに至りたる如きは確に注目すべき社會の病的現象也。元來情死は我國特有の風習に屬し、西洋にありては寡聞ロミオとジユリエツトの外に之を知らず、支那に於ても殆んど詩文の徴す可きものなきに似たり。獨り我國に於ては、南北朝の代『吉野拾遺』に記されたる里村主税の若黨と內侍の女童とが自刃したるを起源として、元祿時代に入りて最も旺盛を極め、大正の今日尙依然として外人を驚歎せしめつゝあるは眞に世界の一奇觀也。而して其日本獨得の情死が、最も多く遊廓に於て演せらるゝは經世家の看過を許す可からざる現象とす。之に對し所轄警察にては、遊客の出入行動を監視すると共に、娼妓に劇藥や刄物を持たせざるやう注意監督する事となりたるを傳ふ。

併し乍ら刄物や劇藥の取締を以て情死を制限し得可しとするが如きは殆んど兒戲に類す。情死の原因を究めて之に斧鉞を加ふる事を思はずして、徒らに自殺の手段を取締るとも何の効か之れ有らん。抑々娼妓の自殺するは彼等に自由なきが故也。日夜豺狼の呑噬に委して、而も何れの日か自由に大道を濶步するの機あるべきを思ひ、紅涙既に盡き果てゝ一死たゞ將に苦悶より罷脫せんとするもの眞に同情に値す。當局若し誠に人命を尊重するの意あらば、彼等の情死を阻止するが如きは一擧手一投足の勞を以て足れり、蓋し一日娼妓を一堂に會して「娼妓取締規則」を說明し、借金と身體と別にして何人と雖も廢業を妨害するを得ざる規則なりと訓諭したら

んには、たゞそれだけにて、然りたゞそれだけにて娼妓の自殺は殆んど跡を絶つに至らんは火を見るよりも炳乎たり。昔者我に自由を與へよ然らざれば死を與へよと叫びたる義人ありしが、今の警察は最も弱き女を虐げて其自由を奪ひ而も唯一脫遁の權利たる死をも奪ひ去らんとす。何たる慘忍ぞや。嗚呼頻々たる情死よ、汝を茲に陷らしむるものはたぞや、乞ふ、吾人をして聲を大にして叫ばしめよ『公娼制度の禍害!!』と。

而も娼妓は其職業上、對手を飽迄墮落に導き、不義の費消をなさしむる結果、男は遂に首が廻らずなりて無理情死を强要するの危險が不斷に背後を襲ひつゝありて、圓かなる夢をだに結ぶ能はざる地位に置かれたる者なり。

寫眞結婚禁止法案

米國下院移民委員會議長バーナット氏は、日本人の寫眞結婚禁止法案を中央議會に提出せんとしつゝある旨報せらる。之れ恐らくは排日運動者の手段たるに過ぎざる可しと雖も、其手段に供せらるゝ所以に想到すれば、吾人は堪へ難きの恥辱を感ぜざる能はず。在米日人の結婚難を寫眞結婚以外に如何にすべきかは余の未だ考慮したる事なき處なりと雖、要するに寫眞結婚位人格の尊嚴を傷け結婚の神聖を無視する者はあらざらん。一葉の寫眞に依て一生の運命を托する自己の半身たる決定を與へ得る日本人の道德が如何に低級なるべきか、排日の眞因、少くとも一因が日本人の人格の下劣にありとせらるゝ所以の者誠に所以ある哉にて、吾人は如何にしても寫眞結婚の家庭の幸福を信ずる事を得ざる者にて、よしや一二圓滿幸福の者ありとするも、そは畢竟福引の成功者にして其無自覺の態度は飽迄唾棄すべきものと信ず。

然れども寫眞結婚は在米同胞の問題のみに非ず、國内に行はるゝ結婚は比々として殆んど寫眞結婚ならざるものはあらず、而して福引の失敗者が歎息の聲に滿つるに非ずや。家庭に波瀾の洶湧するもの宜なる哉、離婚の世界に冠絕するもの宜なる哉。賣春婦の跳梁を逞しうするもの宜なる哉。

咄、咄、登樓切符の撒布

三月十二日、岐阜縣多治見遊廓にては、驅黴院の上棟式に餠撒きに混じて遊廓の無料登樓券を多數に投じたり。事の近村に傳はるや蟻の甘きに就くが如く蝟集し來り、群痴爭ひ亂れて拾得したる由なるが、中には純潔なる靑年や老人小兒さては婦人の手に落ちたるものも少からず、此等は三割引乃至五割引にて賣買せられ、或は面白半分拾ひ得たばかりに、行かなくてもよい、者を行かしめ、買つた事のない者をして買はしめたる者も少しとせず、遊廓は爲めに非常の賑ひを呈したりと傳へらる。何等の醜、何等の暴ぞ、

吾人は廢娼論を社會の表面に叫ぶすら社會の恥辱とす、而も斯の如き狂暴なる日本の男女道德を見る毎に、憤然として、默する能はざるに至るを如何せんや。

離婚の損害賠償

日本人の男女道德の低級なるは、偶々前記の事實能く之を說明せる處なるが、あらゆる家庭の悲劇は男子が婦人の節操と人格を尊重せざるに基因し、男女道德の向上は家庭の幸福文化の發達を增進するものに外ならず。

頃者米國通信によれば、紐育市に於て佐竹手司馬なる者、チベックと呼ぶ米人と相思の仲となり昨年十一月中結婚を約し、本年一月末結婚式を擧ぐる筈なりし處、何故か佐竹某は之を破棄して顧みざるに至り、婦人は百方哀願したれども應せざる爲め遂に悲痛やるに由なくして十萬圓の損害賠償の訴訟を起して係爭中なりといふ。處女の節操を蹂躙してやがて弊履の如く棄てゝ顧みざる我國人の習性は、外國生れの彼にも遺傳せるものと思ゆれど、飜つて斯かる際に於ける我國婦人の態度を見るに、多くは泣寢入を常とし然らざれば即ち悲痛の極身投げする位が落ち也。貞操の尊貴は金錢の値する處に非ずと雖も、斯かる不埒なる男子に經濟上の打擊を與へて膺懲するは社會政策として必ずしも不可ならず、吾人は折角昨年大審院の新判決によつて與へられたる婦人の損害賠償權を利用する婦人の少きを惜しみ、須く奴隷根性を脫却し、人格擁護の爲めに男子の横暴を制する一法として盛んに此判例の利用を望む。

京都遊廓一部廢止

廓清會京都支部の役員より、吾人は愉快極まる報道を接受したり。其全文を錄すれば左の如し。

「今日會員として最も喜ばしい御報告を致す事が出來ました事を嬉しく存じます。それは京都で一番醜態を演じ、社會風數の上に非常な害を及ぼしてゐました四ヶ所の遊廓が大正五年十二月三十一日限りを以て、營業停止を命ぜられた事であります。それで當支部の役員は早速府廳に行つて取調べました處。

一、五番町北新地の內森藪圖子
二、祇園町內四條通北側大和大路通
三、七條新地竹林圖子
四、墨染城地墨染撞木町

の四ヶ所だといふ事が分りました。此事實より考へて見ますれば、世間の人がかれこれと嘲笑しました公娼全廢の運動も、信仰と努力とによつて、廓清會や矯風會の主張が一歩々々進捗する事であります。誠に正義の働は少數なりとも神により力を得て進むときは勝利は期すべきものであります。社會の爲め、國家の爲め、憐れな姉妹の爲め奮起せねばなりません』(富森幽香)

眞に然り、吾人の運動は決して空を打つが如きものに非ず、唯鐘を撃つが如くに直に響かざる迄の事也。大阪に於ける難波新地の勝利や、此の京都の快報の如きは正に全局の勝利を暗示す。欣喜せざらんとするも得んや。いざ同志諸君、京都市の爲め萬歲を三唱せん。(江 南)

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

民族衛生論

廓清會理事　油谷治郎七

一、露國大公の日本觀

御大典奉祝のため露國皇帝の御名代として、御來朝遊ばされたギオルギー大公殿下が、御歸國の砌長春迄お伴をした安達全權公使が『日本で一番深い印象を與へたものは』とお尋ねした時に、殿下には『全國到る處に於て二の事を最も深く感じた。一は、何處へ行つても日本國民は同一な顏をしてゐる、露國はさうでなく、種々な民族から成つてゐる、此民族の同一てふ事は、我々の眼には實に羨ましい事である。第二に日本には子供か多い、都會は勿論村落などでも、多數の子供の群集するを見る、之等は實に日本の未來を語るもので國家の前途祝福すべき事である』と申されたと安達公使は語つた。流石に大公殿下であつて、普通觀光客の如く、徒に市街の美や山河の秀など極て皮相なるものに眼を着けずして、國家消長に最も關係の大なるものに深く傾注せられたるは、實に敬意を表せざるを得ざる次第である。日本國家を成立する民族に統一あり、其民族に繁殖力の大なるものあり、慶すべきかなと言はれたのである。昔オーガスタス帝がローマ人に對して宣べられたる有名なる大演說のうちに、國家の偉大なるは其國土の大なるにあらず、又其市街の立派なることにもあらず、實に唯其國民の偉大なるに因るのであると云はれたが、是は古今同一で、國家興亡の歷史は其國を組織する民族の精力元氣の盛衰に因ることを證してをる。

二、マルサスと人口論

さて民族と國家、人口と社會の關係について深く考へたのは即ちマルサスと云ふ英國の學者で、二月十三日は正に其の誕生百五十年に相當する、マルサスが千七百九十八年に「人口論」を著した當時の英國の人口は、約千二百萬人であるがマルサスは人口の增殖は幾何級數の率で食料の增加は算術級數の率である、兩者の平衡を保たねばならぬが、一方には自然に飢饉疫病戰爭其他人生悲痛の事變が發生して而して陶汰し緩和せらるゝ、更に一方には晩婚避姙等人爲を以て生產率を減ずるやうに至る、吾等は社會の平安福祥のために道義的に制慾して以て人口の過多に增すを防がねばならぬと主張したのである。人口の增殖を恐れて人爲的制限をなすべきことを主張したのである。マルサスは社會病弊の根本を此點に於て救はんと志したのである。人口調節策は彼の立論の根本で

ある。マルサスの說は大に論議する價値があるが今は其場合でない、一時彼の說は歐洲に於て大勢力を占めたものである。やがてナポレオンの戰爭當時から、國家自衛の爲に壯丁の多數を希望するやうになりて、英國に於ても一意人口の增殖を考へるやうになつたのである。

三、人口增減の現勢

現代は又國民的競爭の激烈なる時代である。而して人口の多寡は國家の盛衰に大關係あることを痛切に感じてをる。マルサスの時代は如何にして人口を調節せやうかと考へたのであるが、今日は如何にして人口を增殖すべきかを心配してをる。彼のフランスとドイツの對照は最も好き適例であらふ。フランスは千八百二十年代には其人口がドイツよりも約四百萬人多かつたのであるが、千八百五十五年の頃は殆んど同數であつた。而して今日ではフランスは過去六十年間に僅に三百萬を增すのみで、三千九百萬程に過ぎないが、ドイツは一躍六千五百萬になつてをる。此間の變化は非常の相違を見るに至つた、此結果は兩國の關係をして愈々危殆ならしめた、佛國はドイツの殖民地とならざるを得ぬと同國の識者は絕叫したのである。斯る狀態は他の列國をして益々警戒を此人口問題に加へるやうにならしめる。が、さて歐洲各國とも、露國を除きては、出產率は年々減少する。米國の東部でも著しく、壕州の英人にも亦極て著しく減退の色が見ゆる。獨逸でも伯林市に於ける調査によると各一千の已婚婦人の出產率は千八百七十年には二百二十二であつたが、千八百九十年には百六十四、千九百五年には百九に減退してゆく。尤も出產率の減ずると共に死亡率も減ずるから、全般の上には人口に非常の減退を見ないが、樂觀すべき現象でない。ドイツのプロイセン國ではフランスの跡を追はないかと云つて識者の間に心配する人も少くはない。我が日本國では經濟上の生產力は少いが人口の繁殖は盛んなもので、未だ歐米各國のやうに非常に心配するにも足らぬは幸である。

四、量よりも質の問題

然しながら、現今識者の痛切に憂慮するものは人口多寡の問題よりも人口優劣の問題である、マルサスを始め今日に至るまで多くの學者の心配して考へたるものは畢竟人口の量に關する問題であつたが、今日は寧ろ其質の問題である。誰人も知るが如く印度一億何千萬の民衆が僅かに一萬に足らぬ英國人に對抗することは容易でない。英國人口は十九世紀の初に比較すれば三倍以上に增加したが、其質に於て下落して來た、性格の劣惡に基く極貧者の數は增加する、低能者は增加する、白痴の數は增加する、精神病患者は增加する、是等の增加の比率は人口增加の率よりも激しいのである。英國識者が苦心するは質に此點である。英國のみでない、米國にても獨國にても同樣の心配を以て其改善に努力してをるのである。

顧つて我日本の狀態を察するに、決して樂觀は許さぬ、歐洲諸國に比して頗る痛心すべきことは少くはない、先づ我國人の出產に於て死產が甚だ多い、而も其率は年々增加する

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

十人の生兒に對して死産兒は一人程の割合となつてをる。獨逸などでは年々減ずる、其率も亦少ない、三年程前の調査に基くとプロイセンの如き百二十八萬の生産兒に對して死産兒は僅に三萬八千である大約生兒三十五人に對して一人の死産兒の割合である、バーデン國の如く私生兒の多いところでも六萬六千人に對して僅に千七百人の死産兒を見るのみである。日本の率は比較にもならぬ、死産の多きは自然的よりも寧ろ人爲的である、是は社會衛生の上よりも、又母胎を害するより來る民族衛生の上よりも、深く考慮すべきことでなからうか。次に其産み出された小兒が滿一年を待たずして死亡するものが多い、是も亦年々に増加する、歐米では減退するが日本では増加する、ロンドンやパリなどでは、生兒千人に對して一年未滿の乳兒の死亡率は百内外であるが、日本の東京や大阪や京都は孰れも二百以上である、乳兒死亡率は其國の文明の程度を量る標準であるとまで云はれるのであるが、我國に於て其率の増してゆくは悲むべきことである。

五、悲觀すべき統計上の事實

又我國に於ては女子が十五歳乃至四十五歳の間に非常に死亡者が多い。之を男子と比較すると女子の方が遙かに多い。同年の男女死亡數を比するに十五歳より二十歳迄が五萬人、二十歳より二十五歳迄が四萬人、三十五歳より四十歳迄が三萬人、女子が多いと云ふような統計が現はれてゐるが、歐米には此年代には男女に斯る相違はないのである。我國と最も相似た國は伊太利あるのみである、何故に女が斯様に壯年で死ぬかといふのは、女子には出産と云ふ大事があるからだといふが、然し乍ら歐米の婦人も亦出産するではないか、唯日本國許りが多く、外國婦人が此出産時期に死亡數男子よりも多からずと云ふのは、其處に何等か欠陷があるに相違ない。

統計局の二階堂統計官が熱心に此研究をしてをられるが、出産の爲に死する數と、結核病の爲に死するものとを引き去るも、尚此年頃の婦人の死亡は男子よりも多數であるが、其何にも原因するかは今明白に申難いが、日本婦人に特別の原因があるものと見ねばならぬ、是亦憂慮して研究し豫防せねばならぬことである。日本の精神病患者の數や白痴瘋癲や又低能者などが如何程の數であるか内務省でも不明である、増しつゝあるか減じつゝあるかも明白でない、苟くも一國統治の任にあるもの、宜しく詳細なる調査をなして戴きたい者である。

更に國民の中堅と云ふべき壯丁について見るに陸軍衛生局の調査によれば、壯丁の甲種合格者の數は減退するとのことである、其壯丁が徴兵檢査に當りて千人に對して二十五人程の割合で花柳病を有するとのことであるが、何たる悲むべきことぞ。是等はやがて純潔なる婦人と婚して其血液を毒するのである、子孫に傳はるべき病毒を植ゆるのであると思ふと寒心せねばならぬでないか。ドイツのミユンヘンを本部として民族衛生協會と云ふのがあつて、結婚する時に於て其男女の健康狀態を診斷し、双方とも斯る不潔の疾患の無いことを保障せねば結婚せぬと云ふやうにして、民族の純潔なる血液を

保たうとする團體がある。若し是を勵行せば日本の壯丁は結婚準備試驗に落第するものが極て多いことゝ想像せられる。

六、ユーゼニツクス

民族の優勝を圖るためには歐米は競つて種々の活動をしてゐる、學者の論議するのみでなく、實際の施設を行つてゐる。民族の健全にして優良ならんことを期し、力を盡して居るものを二大別にすることができる。即ち一はイウチニツクス、二はイウジエニツクスである、一は民族の生活狀態の改善を計りて民族自體の改善をはかるもの、二は民族の生殖に陶汰を加へ其子孫の優良をはかりて民族改善を期するもの、一を普通に社會衛生と呼び二を民族衛生又は優生學などゝ稱しをるが概して言へば兩者とも民族の優良を期する點より論ずれば民族衛生に外ならぬ。人口の質の改善を計るに於て、一は外部の境遇を改めて外より内に進まんとするもの、二は直ちに其根本に刃を加へ後代の改善を計るとである。が兩者必ずしも全く別々のものでなく、多くの場合に於て互に相聯絡し相俟つものである。

日本の工場の職工の過半數を占むる女工につきて考へるに工場衛生の不完備と過勞と粗食などの爲に、女工の重患に陷るものが多い、マツチ、白粉、等の製造場にて亞鉛や燐など有毒の材料を使用するところ、或は煙草工場などの女工は中毒して自ら病むのみならず、姙娠の不可能の身となることがある。歐米の工場法は非常の注意を拂つて母となるべき婦人の保護に勉めてをる、又は出産前後の休暇等に關して特別の規定を設けてある、イウチニツクスの上から、又イウジエニツクスの上からも、近く施行せられんとする我日本の工場法の細則に十分に注意ある處の規定を望みたいものである。

七、アルコール問題

次にアルコールと民族衛生の問題であるが、アルコールが癲狂院を繁昌せしむるものであることは已に何人も疑を容れぬ。巴里で調べたるところによると、癲狂院患者百中四十は明かに酒精の中毒であると云はれる、デュプラー博士の「癲狂の社會的原因」には委しく是を說いてある。安達全權公使の談によると、メキシコ人は一般にベルケと云ふ酒を飲むが此酒は神經を弱めて半狂たらしむるものである、メキシコ國民を斯る悲慘の狀態に陷らしめたる原因は一にして足らぬがベルケの害は其大なるものであるとのことである、是を思ふと露國に於て戰爭の初に於て、多大の歲入を顧みず酒類の販賣を嚴禁せるは、實に思ひ切つた英斷で、露國民を幸福ならしむることは少々でないと思ふ。

更に又、今日我民族を害する大敵は結核である、老人が多く是が爲に斃れるのであるならば尙忍ぶべしとするも、一國を擔當する最も大切なる時機の青年、將來の國民を生產する時機の婦人が、最も多く是が爲に滅ぼされるのは、實に慨いても歎かざるを得ないことではないか。而も英獨佛では減じゆくにも拘はらず、我國では是が爲に害せらるゝものが年々增

加するのは實に殘念である。

八、戰慄すべき花柳病の禍害

尙また民族の大敵には花柳病がある、花柳病が其患者の精力を減損し、其家庭の幸福を害し、其國民の元氣を消す力の猛烈なるは、已に多く論ぜられてある。近頃佛國の花柳病專門家大醫フールニエ氏の「梅毒の社會的害毒」なる書中に記するところを見るに、同博士の診察せる四千四百人の患者のうち、梅毒が腦を侵害せるもの七百五十八人で其他神經系統を害せるものを加ふれば實に千六百五十二人に上るとのことだ、人體の下部のみでなく眼も舌も口も、あらゆる機關を害し骨まで全く腐蝕せしむるものは實に此病毒である。唯に患者自身のみでなく、子孫を害する度も亦猛烈である。

スペンサーなどが樂觀しておつたが、此頃露都のタルノウスキーが梅毒の子孫に及ぼす害の研究によれば、梅毒を患ひたる者が不姙娠となり又は五六ケ月にて死兒を產し或は生兒も一年未滿にして死するものは多いし不具の兒も多い、又梅毒を有する兒も多い、此遺傳的影響は梅毒ある親の子に著しいとのことである。タルノウスキー博士の述ぶるところによれば、此病毒が個人を害するよりも、民族を害することは更に大である、即ち其子に及むで一層猛烈であると說いてある。余輩は病理の專門家でないが、信すべき專門大家の示すところの證明は斯くのごとしで、實に慄然として恐れねばならぬではないか。

フールニエ博士が一萬人の婦人患者について、調べたる所によるに、其百分の二十三は無垢の婦人が其夫より梅毒を傳染したものであるそうだ。日本に於て斯る調査が能れば面白い研究になるであらふ。男子は快樂を追ふて不潔な醜業婦を弄び、而して病毒を其純潔なる家庭のうちに移植し、不姙娠、死產、不具、病弱兒等を發せしむるのである。恐るべきでないか。

九、片手落の倫理法律

印度にては人の妻たるものが他の男子に通せば、其夫たるものが妻の耳を斬り去るの權あり再犯の婦人には其鼻を切斷するを得るそうで、耳や鼻の切り落されたる婦人があるそうだ、而し男子の他の婦人と通ずるは罪はないとしてある。是れは片手落の男子の倫理であり法律である。日本に於ても婦人は男子の亂行を默忍し、其夫から自己を全く不具にするところの病毒を感染せしめらるゝほど侮辱せられても、默して訴ふるところがないのである。是は決して文明の法則ではない矢島女史などが每度議會に請願せられて奮鬪しつゝある改正案を成立せしめたいものである。是は風紀廓淸問題であるのみでなく、民族衞生の上より大切である。法制上の談をなせる序に申すが、ベルギーなどでは少年男女の身を誤るやうな家庭、父母の孰れかゞ姦通罪を犯したる場合、大酒の爲に家庭を亂す場合、又は猥褻の媒介を營業とする場合には、少年に對して父母は親權を失ふのであつて、國家は其少年たる子女を其

家庭より奪ひて國家權力の下に保護するやうになつてをつて少年子女に惡感化のなき樣に保護する制度である。我國に於ては惡しき影響を防ぐどころではない、是を誘發する機關を公然許すのみか、滿十四歲前後の小女が雛妓とか半玉とか稱する名目を以て養はれ、其純潔なる血を汚されるやうになつてをるが、之を保護する制度は何處にある乎。

十、存娼論者の謬見

議論の順序として民族の衛生の立場から公娼制度について少しく述べて見やう。世人は人道の上、又は人權の上から公娼制度を非難しつゝ、尚社會衛生の上から之を是認するやうな處に多くは此立場に立つておる。而も余は其の見地は實に誤りであることを思ふ。民族衛生の上から寧ろ却つて反對せざるを得ないのである。論者は三個の假說の上に議論を築いてをる、一は公娼制は私娼を防ぎ若くは減ずるものであるとの假說、二は今日の檢黴制度は花柳病豫防に頗る有效なりとの假說、三には公娼制度にあらずんば花柳病を豫防することはできぬ、若くは豫防するに最も有效なりとの假說である、が事實は此の假說の誤謬であることを證しておる、公娼制度は私娼を防がぬのみか、却つて激成し誘發するものである、吉原に二千四百の女郎は公然營業しておる、其接續地たる千束町及淺草第六區には三千數百の私娼が雇女と云ふ名目の下に存在しておるではないか、巴里にも約六千人の公娼はあるが、私娼は警務總監であつたレピヌの說によると約六萬である。公娼を廢せるノルウエイのクリスチアナや丁抹のコッペンハーゲンには却つて私娼の影を見ることは比較的に少いのである。次に今日の檢黴制度なるものが、さまで有效でないことは、ロンドンに開かれたる萬國醫學會にて花柳病專門家の明言せられたるのみならず、我國の大學の專門敎授が公言しておることは世人の知らるゝところである。假りに數步を讓りて多少の效あるとせよ、其方法を大に改善して有效なるものとするも、公娼制でなくとも其方法を適用せらるゝではないか、苟くも醜業婦であるものは、其カフェー女であると、藝妓酌婦であると、雇女であると仲居であるとに論なく悉く其有效なる方法を適用して檢査し、强制的に豫防するやうにすればよい。余輩は十八世紀の個人主義や人權主義に捕はれてはならぬ。其民族の衛生を害し安祥を破るものは、社會自ら其手を延して其害を防ぐべきである。一方に檢黴の有效なることを自信しながら少數の公娼に施して、一方に藝妓及酌婦などの私娼同然の輩に施さぬは、衛生上より片手落である。又或縣の如く仲居酌婦の輩に檢黴を施すものとせば、公娼を特に設くる必要は何處にある。不倫非道の惡制度なる公娼を許して、白晝公然として客を引かしめ、又醜業を公許して大厦高樓を以て人目を惹かしめ、靑年の情念を誘惑するごときは、決して文明の世に在るまじき蠻風ではないか、寧ろ之を全廢して公に醜業を營むを禁じ、若し私に春を賣るものあれば其何業を名目とするにもせよ、悉く之を罰し强制的に其者に檢査を施

し、クリスチャナ及びコッペンハーゲン等に於て實行するが如き政策を講ずるは、風紀上及び人道上は言ふまでもなく、民族衛生上より遙に有益と思ふ、彼のペストの毒を傳播するの恐あれば全力を傾けて鼠族を驅り盡すではないか、最も恐るべき病毒を家族に傳へ子孫を禍する民族の大敵たる花柳病毒を傳播する輩を横行濶歩せしめて怪ますとは、捨ておきがたきことであると思ふ。

十一、日本民族の消長問題

人類未開の世に於ても、無意識的に民族衛生を重んじ、或は血族結婚を以て神罰を招くものなりと信じ、或は不倫の行爲を行ふものを罰するに重罪を以てし民族を害する病毒を傳ふるものは其民族相依りて之を排し去るなど自衛の策を講じておる。今日文明の國々に於ては、或は犯罪の痼疾となれるもの、或は白痴瘋癲の如きもの、或は亂酒性となれるもの等を隔離し、又は去勢法を施して、其害を後代に傳へざるを圖り、血族結婚又は重婚を禁じ、或は劣等民族との結婚を禁じて以て民族自衛の道を計つておる、かくて人類は一層剛健に一層優良なるものとして進歩することを勉めておる。吾輩も亦我日本民族の愈純良にして愈雄健ならんことを欲するが故に、衷心よりして我日本民族の血液を毒する弊害を防がんことを冀ふのである、民族衛生の上より廓清を叫ばざるを得ぬのである。(完)

最近の廓清運動 (一)

□工場傳道の試み

三月二十日午後三時、二千數百人の男女工を有する東京モスリン會社の廓清講演會に臨む、最初伊藤秀吉氏は廓清とは何ぞやといふ意味の說明をなし三輪田元道氏は滑稽諧謔を交へて平易の裡に深遠なる眞理と敎訓に充てる有益なる講話を試みられた。聽衆は同社の技師技手職工長等の首腦者のみにて男女二百餘名であつた。

工場に對して廓清の思想を鼓吹する事は最も大切なる運動であるに違ひないが、これ迄餘り手をつける餘裕がなかつた。曾て京都の鐘紡で、伊川要一郎君等の熱心なる會員があつて安部氏入洛の機をとらへて、同社内に廓清演說會を開き、多數の會員を得し事ありしが、家田作吉君の斡旋にて今回東京モスリン會社内に開き得たるは、東京に於ける第一の試みである。

□大阪支部總會

三月二十四日、大阪支部の四週年總會を土佐堀青年會館で催した。會務の報告から協議會に移り、更に夜は公開演說會を開く、釘宮辰生氏開會の辭を述べ、グリスン、宮川經輝二氏の有益なる大演說があり、聽衆に多大の感動を與へて九時中散會。

□廓清矯風聯合大會

三月二十六日、再び婦人矯風會と聯合して大演說會を神田青年會館に開く、午後六時伊藤秀吉氏開會の辭を述べ、第一席成女高等女學校長宮田脩氏「人としての女」と題し別項の如き演說をなし、伊藤富士雄氏簡單に自由廢業の現況を述べ、第三席安部磯雄氏は「男女道德と遺傳」と題し、有益なる演說あり、第四席女子醫學專門學校長吉岡彌生女史は「男女の地位に就て」論じ、無限の如き拍手の裡に降壇、第五席文學博士井上哲次郎氏は「一夫一婦の道」と題し非常の喝采を拍し最後に島田三郎氏は「根本の培養」と題し、快辯縱横に聽衆を魅し、破るゝが如き拍手の裡に散會。此日入場料五錢づゝを徵したるに拘らず、堂上堂下立錐の餘地なく、來會者無慮千名、入場料四十圓八十五錢、即時入會者五十二名を得た。

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

ソロモンの箴言を讀む

救世軍大佐
廓清會評議員　山室軍平

私は今ソロモンの箴言の中から風紀廓清に關する教訓を尋ねて見たいと思ふ。

スマイルスは其の著「自助論」の序文に於て、書中の教訓は一つも新しいものでなく、畢竟ソロモンの箴言にある舊い教訓を繰返したものに過ぎないことを辯じて居る。此の如く箴言の教訓は舊い。併し乍ら其中に含んで居る眞理は、何時までも新しいことを覺える。唯之をどんな風に今の時代に當箝めて行ふかといふことのみが重要なる點であらうと考へる。

第一、箴言の中に淫行を戒める教訓が多くある。今其の重なるものを擧ぐれば左の如し。

（イ）箴言の中には先づ娼妓に戯ることの危險と害惡とを戒めてある。「娼妓の唇は蜜を滴らし、其口は脂よりも滑かなり。されど其の終りは茵蔯の如く苦く、兩刃の劍の如く利し其の足は死に下り、其の歩みは陰府に趣く。彼は生命の途に入らず、其の徑はさだかならねども自ら之を知らざるなり。」又「夫れ娼妓の爲に人は唯僅に一撮みの糧をのこすのみに至る。」「夫れ娼妓は深き坑の如し、淫婦は狹き井の如し。彼は盜賊の如く人を窺ひ、且つ世の人の中に悖れる物を増すなり。」などあるのは其れである。

（ロ）同時に箴言には又娼妓ではなくとも、凡て妻ならぬ婦人と不義をすることの不都合を嚴重に戒めてある。「人は火を懷に抱きて其の衣を焚かれざらんや、人は熱き火を踏みて其の足を焚かれざらんや。其の隣の妻と姦淫を行ふ者も斯くあるべし。凡て之に觸る者は罪なしとせられず。」又「拙き者の中、弱き者の中に一人の智慧ある者」が、人妻に誘はれて「恰も牛の屠場にゆく如く、愚なる者の足かせをかけらるゝ爲に行くが如く」之に随ひ行く有様を語りたる後「子供等よ今我に聞き、我が口の言に耳を傾けよ、汝の心を淫婦の道に傾くること勿れ、又之が徑に迷ふこと勿れ。蓋し彼は多くの人を傷つけて仆せり、彼に殺されたる者ぞ多かる、其の家は陰府の途にして、死の家に下りゆく。」の如きは、其れである。

第二、然らば箴言は、如何にして人が此強き誘惑に打勝べきことを教へて居るかといふに。

（イ）此種の誘惑は成るたけ、傍に寄りつかぬやう、之を避けよと教へてある。即ち箴言の第五章に娼妓の恐ろしきものであることを戒めたる後「小子等よ、今我に聞け、我口の言を棄る勿れ。汝の途を彼より遠く離れしめよ、其の家の門に近づくこと勿れ。恐らくは汝の榮を他人に渡し汝の年を憐みなき者に渡すに至らん。恐らくは他人汝の財寶に由つて盈されん。汝の勞苦は他人の家にあらん。」といふてある。此れは「主の祈禱」の中に「我等を試鍊に遇はせず、惡より救ひ出し給へ」と教へてあるのと同じく、求めて誘惑に近づく可らざる

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ことを論したるものである。それ故淫行を免れたいと思ふ人は、なんでも其の劣情を挑發しさうな誘惑に遠ざからねばならぬ。啻に良くない婦人の徘徊する場所に近づかないのみならず、穢はしき文書繪畫を遠ざけ、不潔不品行を誘致するが如き興行物を避くるなど、所謂「肉體の慾を行はん爲に其の備へをなさゝる」覺悟が大切である。

(ロ)次に信仰の道に心を寄せ、積極的に高尙、善良、有用の生涯を營む心がけが大事である。「聰明は汝を妓女より救ひ言を以て諂ふ女より救はん。」「夫れ誡命は燈火なり、律法は光なり、敎訓の懲治は生命の道なり。」これは汝を守りて惡き婦より免れしめ、汝をたもちて淫婦の舌の諂媚に惑はされざらしめん。」人を淫行より救ふ者は、隱れたるに鑒給ふ眞の神を敬ひ、其の御助と御導とに依り賴む外はないのである。

(ハ)今一つ大切なるは、若しそれが神の御旨であらば信仰にもとづける家庭を作りて、其の清福を樂しむことにより、穢れた誘惑を擊退すべきものである。「汝己の水溜より水を飮み、己の泉より流るゝ水を飮め。汝の流を外に溢れしめ、汝の河の水を衢に流れしむべけんや。之を己に歸せしめ、他人をして汝と偕に之を與らしむること勿れ。汝の泉に福祉を受けしめ、汝の若き時の妻を樂しめ。彼はうつくしき牝鹿の如く、美はしき鹿の如し。其の乳房を以て常に足れりとし、其の愛を以て常に喜べ。我子よ如何なれば娼妓を樂しみ、淫婦の胸を懷くや。」などゝあるのは其の事である。清福なる基督敎の家庭は、有らゆる誘惑の避難所である。又有らゆる高尙純潔なる氣風の産出所であると謂ふことが出來る。

ピーチャーは或時、宗敎家の中に餘を遠慮して、人々の淫行を戒め得ぬ者の多いことを慨し、前揭の或句など引用して既に聖書の中に此れ程明白なる敎訓があるものを今の宗敎家のみが否やに上品振つて、此重要なる問題に言及しないのは不都合であると論じたことがある。注意すべきことである。

第三、酒の害の事に就て、箴言の敎ふる所は、亦至つて明快である。「酒は人をして嘲らせ、濃き酒は人をして騷がしむ、之に迷はさるゝ者は無智なり。」「レムエルよ酒を飮むは王の爲すべき事に非ず、王の爲すべき事に非ず、濃き酒を求むるは君主の爲すべきことに非ず。」又「禍ある者は誰ぞ、憂ひある者は誰ぞ、爭ひある者は誰ぞ、煩慮ある者は誰ぞ、故なくして傷を受くる者は誰ぞ、赤き目ある者は誰ぞ、是れ即ち酒に夜を深す者、往きて混せ合せたる酒を味ふる者也。酒は赤く盃の中に泡だち、滑かに下る、汝之を見る勿れ。是れは終に蛇の如く嚙み、蝮の如く刺すべし。又汝の目は怪しき物を見、汝の心は謊言をいはん、汝は海の中に臥す者の如く檣の上に臥す者の如し。汝言はん。人我を擊てども我痛まず、我をたゝけども我覺えず。我醒めなば復酒を求めん。」と敎へてある。此「人我を擊て共我痛まず云々」といふ句を思ひ合はさるゝのは、日本の或る古い書物に上戸の口癖を寫し「こりやわれが樣に酒が吞めぬは一生の損ぢや。ちつと吞み習ひなさい、これ見て置け、おれの頭に此れ位どえらい疵がついたけれど酒のむでゐたお蔭に、其の時は痛いことはなかつた哩」とある文句である。東西古今、酒飮位馬鹿氣た行ひ又心得違ふた業をするものはない。

人としての女

成女高等女學校長
廓清會理事　宮　田　脩

□男女の職分

私の題は婦人から見ると極めて皮肉なそして婦人を侮蔑する樣に聞えるが、決して其樣な意味ではなく只だ判り易い爲め、斯うした題を附けた迄の事である。古來より男は法律を創り、女は道德を造るといふ諺がある。實に何時如何なる國と云へ共實際に於て男子は法律を創り女子は專ら道德的方面を開發して今日に至つた事は、歷史が證明して居る處である。而して殊に今日より將來に於て益々此兩方面が其立場を鮮明にし發展を期せなければならなくなつて來ると思ふ。

熟々我國の現狀を察するに西洋文明が輸入された結果、建築の壯大なる衣服の美麗なる其他凡百の方面に物質的科學的要求は我等の望む盡に得らるゝが、之を内的即ち靈的方面に至つたならば寔に貧弱な憫れな感に打たれざるを得ぬのである。今日の社會は物質的方面は滿足に出來るとしても靈的方面が甚しく缺陷を生じて居る爲めに、常に多くの人は云ひ知らぬ不安に因はれ何かは知らねど空虛を覺えて不足の感を懷いて居るのである。之が現代人の悩みであつて今日の狀態は實に此の或る何物か不足を懷いて居るといふ不安不滿が多くの人の頭に宿つて、夫が時と場所に觸れて樣々な火花を散らしてゐるのである。而して此の狀態は何故に因つて起るかといふに、夫は實に六ケ敷問題であつて一朝一夕にして論斷するとか又は其源因を一々指摘する事は困難であり、最も研究す可き價値の存する處であると思ふ。私は之に就き僅に其一端を述べんとするのであるが、要するに古來より男子は外的方面に活動をして來つたので、殊に今日又は之からの社會は男子の外的活動が益々努力を要し精力を充分傾注せねばならぬ時代となつて來てゐるから、之に對し女子は男子の其外的方面に活動するに要する慰安を與へねばならぬ、畢竟男女共に物質的方面の糧でなく靈的方面の糧を求むる事は必要であるけれども、女子は前述の場合の爲め尙一層夫を要求し而して男子の缺陷を補はねばならぬのである。之が今日此社會に於ける實際に當嵌む可き點で、所謂分擔的の仕事であらうと思ふ。而して女子は社會道德の爲めに大に奮起し且つ努力せねばならぬが、然し又一方男子も夫に相應援し要求し双方共に自覺して其處に確固たる道德の根本を據へ付けねば到底完全なる社會の進歩發達を望み難い處であると思ふ。

□誤れる道德觀念

男子は法律を創り、女子は道德を作るといふ言葉の出來たのは確かローマ時代と思ふが實にローマ時代は女子が道德的方面に奮起し、社會に貢獻した事は我々が今日大に感謝を表する處で、ローマの女性の歷史は常に道德的方面に大なる力の存した事を證明して居るのである。然るに我國の現在はいざ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

知らず昔は幾多の女子が多く道徳的方面に身を犠牲にしたといふ例があるやうに一寸考へられるが、夫は大なる考へ違ひで寔に淺薄な事なのである、道徳を破壞する爲に其導火線にはなつたが高める事には力にならなかつたのである。

支那の烈婦烈女傳の緒言に書いてあるのに或る婦人が子を一人抱へて若い時亭主に死別れた。然るに彼女は子供の二十才になる迄樣々な誘惑に打勝つて獨身で通し、而も夫が純潔であつて決して貞節を破らなかつた。彼女の細腕に辛くも子を一人前に育て上げたのであるが、愈々年頃になつたから嫁を取らうとすると問題が起きた。それは即ち支那の風習として三百圓無かつたら嫁を取る事が能ない。併し乍ら彼には勿論其金が無かつた。けれども家思ひの彼女は、夫が忍び離くて千々に心を碎いた結果佛に願つて家の爲め我が子の爲めに嫁を貰はねばならぬ、併し私が家に居つては迚も嫁を貰ふ譯には行かぬ。と云つて如何しても大金が要るのだから一層我身を賣つて、其金子で嫁を貰ふてはと思ふが何方が私の取る可き道であるか何卒敎へて下されと願つた。處が身を賣つても良いといふ事であつた爲め遂に身を賣つて、而して子に嫁を取つてやつたといふ事が書いてある。

之は實に烈婦であるといふので、しかも緒言に書いてあるのであるから、當時は實に烈婦の龜鑑であつたものと見ゆる然し乍ら之等は或る點から見ると女の動機は實に立派であるが、之が烈女であるかどうかといふ事になると今日から云へば到底首肯する譯には參らぬのである。要するに昔は右の如き婦人を推して烈女と稱したのであるが、如何に昔の女が社會に善い感化影響を與へたかと云ふ事に就ては疑問である。兎に角昔は斯うした者が多くあつただけは事實で、父母の爲め子の爲め、身を賣つて一家の窮乏を救はうといふ其心懸は實に殊勝であるには違はねが、その方法が他に一時に大金を得る手段がない爲めに已むを得ぬとは云へ我身で働ける稼業として所謂遊廓に身を沈めるのを選ぶのは實に誤れるも亦甚しきものであつて、倫理思想の誤謬から生ずる氣の毒千萬なる道徳であつたと思ふ。今日此廓淸會が大に活動努力せねばならぬ原因は此に在る事で、右の樣な事態が漸次激烈の度を加ふるに至つた爲め玆に本會の發起も餘儀なくなつた譯である。

□人にあらざる女

元來古今東西を問はず遊廓等の如き物があつて婦人を奴隷的に壓迫するから、勢ひ男子が女子を重く視ないのであつて實際如何に考へても遊廓制度の如き物が存在しては重く考へぬのが當然な事で、遊廓は婦人蔑視の思想の養成所に外ならぬ。女としても如斯考へを持つた者があるとしたならば迚も尊敬も何もあつたものではない。而して右の事實から考ふれば女は社會を進めたものであるといふ事は能ぬ、寧ろ墮落せしめた者であると私は思ふのである。今日廢娼運動や廓淸運動を盛んに稱ふるけれども、これが只男子耳の運動で女が平氣で居る間は解決せられないであらう。今日遊廓制度や又は私娼等の存在は婦女子の自覺が足らぬからであつて、反對運動を男子の手を借りてやるといふのは實に情ない事では

あるまいか。

先達淺草の六區とは一體怎麽處かと見に行つた、彼の活動寫眞の處から曲ると窪に薄闇い路の兩側に格子造りの家が軒を並べ其障子の間に僅な硝子張の處があつて其處から少し許り顏を出して人が通ると何か囁いて居る、夫が極めて私には悲哀に感じたといふのは宛ら人間でない者の如く思はれたからで動物園の象でさへ彼等白首よりは自由で愉快であるのに増して萬物の靈長たる、而も社會道德を樹立す可き責任あり義務ある婦人が彼の狹い薄暗い牢屋の如き處に居つて客を迎へる態は、迚も私にはどう考へても人間らしく見えなかつたのである。所謂人としての女ではない。實に情ない事であつて之に又人を人と思はぬ道樂連中が行くから、人として人でない處へ人を人と思はぬ連中が行つて動物の樣な行ひをする事になるのである。有體に云へば女を女と思はぬ男が、女であつて人でない處へ行くから頽敗が益々盛になつて來るのであつて如何に憂國の志が之を撲滅しやうと思つて奮戰するも其結果が思はしくないのである。廓清會が如斯大運動を爲すのも彼等が人間の部類に這入らぬからで、彼等私娼公娼が人になれば、所謂人としての女になれば夫で事足り社會の健全は茲に其曙光を認める事が出來るのである。

之を要するに右の如き現象は何に其起因を尋ねばならぬかと云に之は勿論教育問題である。女子教育の不備は其處に至つて尚一層痛切に感せざるを得ぬのであるが、私は新しい女が好きだ、然し乍ら所謂女らしい女は嫌だ、と云つて亭主が道樂するからといふて其胸倉を取つてどうこうする女はいけない。私のいふのは即ち婦人として自分は如何なる事に其理想を持たねばならぬかといふ自覺のある婦人になる事を望むのである。そして其自覺が軈て廓清運動の功果を齎す同一な過程である事を私は考へて居るものである。

□婦人の自覺を促す

今日女子の教育は所謂良妻賢母主義的で嫁に行つたら姑と仲惡しくてはならぬと教へる。姑を大切にせねば惡いと教へて居る、然し乍ら姑の御機嫌の取具合に頗る不備の點があるまいかと思ふ、只徒らに姑の氣に逆はない樣に畢竟腫物でも取扱ふ樣にするのと、又一方心から姑に同情を以てし情に依つて飽く迄大切にするのとはそこに非常な差がある。後者が軈ては嫁と姑との間が圓滿に行く所以であつて、同じ足を揉んでやるにも情を以つて揉むのと、只御機嫌を取る丈に止まる揉み方とは雲泥の相違があると思ふ。故に先づ之等婦人の自覺を待つ事が必要であつて、私共は大に婦人の覺醒を促さねばならぬのである。而して後男が女の價値を認めて働く餘地を與へるやうにしてやらねばならぬ、人としての女にしてやらねばならぬのである。

元來女らしい女といふ事は昔から隨分唱道された事で、柔和な從順な女、即ち消極的の女でなければならぬとした。今日は只單に夫丈では駄目だ、世の趨勢は矢張り女でも社會を理解する婦人でなければならぬ、それが即ち夫を理解する所以の婦人であり家庭を幸福ならしむる所以の婦人であると思ふ。（廓清會演說大要、未經校閲文責記者）

性慾問題と基督教

第三高等學校教授　文學士　栗原基

□現代の興味と性慾問題

現代の興味は餘りに現世的である。第十八世紀には、黑死病その他の傳染病が歐洲諸國に蔓延せしを以て、世人の現世的興味は漸次薄らぎ、從つて來世的の興味が熾烈となりたれば靈魂不滅の學說の如きは、當時一般の學者思想家等が之を公認せられたる事實として毫も怪しむ所はなかつた。然るに十九世紀より今日に至るまで人類社會の進步と不測の天變地異の減少とに由りて、現世を安住の地と感ずるに至り、來世に對する興味は自然に薄らぎ、永世の觀念の如きも意に介せざる樣になつた。特にかゝる傾向を助長するに、物質主義の思想は偉力を逞ふしたのである。かくの如き現世的興味の結果として、文藝界に於ては、寫實主義の流行を見、理想的傾向は薄らぎ、從つて靈的興味よりも肉的興味を謳歌するに至つた。されば、かゝる時代傾向の潮流に棹さして、現世的享樂の中心とも言ふ可き性慾問題が、新しき理由を得て極めて明らさまに表はれたのであらう。特に理想よりも現實を歌ひ、空想よりも寫實を尊ぶ傾向に陷り易き文學は、人間の長所を誇大視して理想化せず、個人の赤裸々なる缺點と不完全なる姿を描寫して、多數の凡俗なる讀者の同情を求むるに至れる時、人間の肉的慾求の多大のエンファシスを置くに至りたる事は、尤もなることと言はざる可からず。要するに現代の傾向は、基督の前に於けるマリヤよりも寧ろマルタの風で、日常當面の問題を一つ一つ解決せんとして、彌益に煩悶と懊惱と憂愁とを深からしめてゐる。されば、此の間に、人間の日常生活に密接な關係ある性慾問題が、頭を擡げるに至つたのである。

茲に於て、現世に非常に危險なることは、此の性慾問題を一個の獨立せる價値の如くに取り扱ひて、人間の人格全體を之によりて解決せんとするが如き議論が勢力を占めることである、惟ふにかくの如く、人格の根本義を棄て、單に性慾問題のみを解決せんとするは、本末顚倒の愚を演ずるものと謂はねばならぬ。抑〻性慾は人格の一方面の表現であつて、決して人格全體が、之れによりて解決さるべきものにあらず、性慾は單に關係的價値を有するのみである。嘗て獨逸では、性慾のみを研究し、之を智的に解決したる曉には、之に關する弊害と誘惑とを一掃し得べしと考へて、大に此方面の努力をなしたる事あるも、之は全く失敗に歸してしまつた。解決どころか、反之性慾に關する智識を增せし爲めに、益々之を濫用する大學生等の簇出するの破目に陷り、遂に收拾し

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

能はざる悲境に陷つたことがある。此の事實は、性慾問題を一個の獨立せる問題として取り扱ふことの不可なることを裏書して餘りあると思ふ。

□靈肉一如の妄想

性慾問題の研究者の一人に、獨逸の生理學者フェルスター氏がある。彼は此問題に關する研究をなせる間に、漸次、一箇の物質的興味のみを有する生物學者が、此問題を單に肉的に解決することは不可能なることを經驗し、自ら、之が解決は、遂に宗教に求めざる可からずといふ結論に達するに至り茲に於て一書を著はして「倫理と教育上より見たる性慾」と名附て公にしたのである。此の書は何を訓ゆるかと云へば性慾は、單に該問題の範圍内に於て解決し得べき性質のものにあらず、人格全部の要素として一層靈能深遠なるもの、即ち宗教に依て最後の解決を完ふせらるべきことである。現代日本の所謂新思潮の流れに棹させりと稱するものが、屢く靈肉一如といふ美はしき語を用ゐてゐるのを見るが、之は結論眞理としては、余も亦異存を有せざるが、青年の實際の修養の方より觀る時は、危險なる傾向と思ふ。若しそれ已に道を體得し圓滿無缺の妙境に入れる聖者にとりては、靈肉一如の主張も宜なりと思はるけれ共、麓より坂道を攀縁せんと努力せる青年にとりては決して彼等を謬ること甚だしきものである。彼等は靈肉一如にあらずして、靈主肉從の精神を以て進むが、眞實なる生活に至る所以である。抑之は自然界の神聖なる順序なるを以て、此の性慾問題の如きも、何處までが靈の問題で、何處迄が肉のそれであるか截然と區別することは出來ぬが、實際に於ては、肉慾の問題で、罪惡の醜き姿を現はし勝な暗黑な問題である。されば此の問題は、心靈の權威の下に相當の制御を加へて、その本能を全ふし、かくて靈肉一如の妙境に至るべきが至當で、始めより妥協的に肉の聲が靈の聲を抑壓するが如きことがあつてはならぬ。此の點が文藝家の主張と、吾等宗教的立場にあるもの、特に基督教的立場にあるもの丶主張との差違の存する所である。余が一個としては飽く迄、靈主肉從を主張せざる可からずと思ふ。

□信念勃興と戀愛問題

只玆に一つの問題がある。それは宗教的生活と性慾的生活とは一見すれば天地霄壤の差ある如く思はるゝことである、然し青年時代に於ては、宗教心と性慾の二問題は極めて密接な關係を有するもので、その内心の靈的渴望は、靈物に對してあるものを求めると同時に、自分と同じ心的狀態にある友を求むるので、特に異性の中に、かゝる同情ある知己を得れば非常なる奬勵を感ずるものである。されば、すべての青年は如何にもして、異性の間に自分の淋しき時の慰藉者を得たしとの感じが、不知不識の中に、その内心に大なる勢力あることを發見するであらう。青年時代の青春期が一方に信念勃興の時代なると同時に、他方に於て戀愛憧憬の時代であるのは之が爲めで、共に是等は、情感の中心とせる青年時代の特徴である。右手は親しき人の手を握り、左手は空に向つて見えざる手を握らんとしてゐる。之は、基督教の立場より云へば、兩

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

方とも擯斥すべきものでない。吾等は禁慾主義者ではない。右手に握れる戀人の手を振り棄てたることは勇ましき事なるも、之が爲めに人生の大切なる者を失ふことの悔なきにしもあらず。さりとて、吾等は肉の追求者ではない。空中高く見えざる手を上げたる吾等の手を下して、兩手を以て肉の手を捕へんとする時、吾等は墮落の深淵に落下するのである。されば片手は天に向つて、見えざる靈の手を捕へんとする靈的の渴仰と、他の片手は脈膊の中に、我と同じ血の漲れる者の肉の手を握らんとする肉的要求、此兩者が若し、かの神聖な順序さへ謬ることなくば、共に存在の理由は十分にあるのである。又兩者各々その一つを缺くならば、必ず圓滿なる人生の解決をなすこと能はざる可し。かの禪宗などで、男根の不完全なるものは、道を修むるの資格なしとせるは味はふべきことゝ思ふ。吾等が肉慾を滅却せず反つて、肉慾を以て之を嚮導して行く所に、其の性慾の解決は發見されるのである。

□サイレンの妖女と妙音

之を要するに性慾の問題は、智的の問題にあらずして力――即ち人格の問題である。若し現代の基督教が性慾を抑制する力を青年に與ふる事能はずとすれば、それは死せる宗教なりとの誣に甘んじなければならぬ。若し現代の基督教が青年の性慾問題に對して死刑の宣告を與ふるならば、それは舊き宗教の遺骸である。往昔、オデッシイがサイレンの島を通過する時、舟人は、妖女の妙なる歌聲に魅せられて、危くも、破船せんとせしかば、彼は耳を閉ぢ手を檣に縛して、辛くも舟を進めた。然しオルフスは稀代の音樂の妙手なりしを以て、舟人をして擧つて美はしき樂を奏せしめて、かの妖女の歌を壓倒し、極めて堂々と船を行つたのである。性慾についても問題は、情慾の一列なる突撃を如何にして退く可きかに非ずして、寧ろ如何にして靈感不斷に胸裡に溢れて、性慾の情緒が殆ど忘却されてゐる樣にすべきかにある。之を要するに吾等の生活が思想に於ても情感に於ても、淸きものによつて占領されてゐて、肉的要求が容易に自分の主にならざるに至らば、それにて可なる可しと思ふ。吾等の眼が、健全なる時には、塵がその中に入らんとせば、その瞼を閉づること、間髪を入れざる程機敏であるが、それと同樣に吾等の精神生活も高潔健全なるもので充たされてゐれば、肉の塵が心眼を侵さんとする時は、極めて敏捷に瞬きをするに相違ない。されば此の問題の消極的解決は、之を中世紀の僧侶に委せて、吾等は積極的に性慾を歡迎し、毫も恐るゝことなく、之を我が從順な僕となし、かくて一方に於ては人間の溫かき情緒を養ひて、死灰枯木とならざる樣にすると同時に、他方には、極めて潑溂として內容豐富なる靈的生活を維持する樣にせねばならぬ。

□青年問題と性慾問題

兎に角性慾問題が青年に特別なる關係ある所以は、此の時期が、靈肉共に特別に情感に支配され易い爲めで、殊に放縱なる社會と、祖先の遺傳的惡癖と、更に搗てゝ加へて自己の

意志の薄弱とによつて、如何にせん最も美はしかるべき情感の花匂ふ時代を、泥濘の中に穢し勝ちなる故である。老人達は早くも、自己の靑年時代の心理作用を三途の河に流し去りて、靑年間に行はるゝ、肉慾放縱の生活は只徒に呪ふて、毫も之に對して同情し、之が解決を試みんとせざるは不心得千萬である、特に教會の善男善女と、彼等を指導する牧師、傳導師が、性慾に對する態度甚だ無關心にして、之に關する智識と經驗の極めて不徹底なるは、宜しからず。靈的要求や信仰問題と、如何に性慾問題が密密なる關係を有するなるかは、在來の宗教が肉慾を庇護して祭禮の時に、平素許可せざりし淫事を公許してゐたといふ歷史的事實によるも、且つ又靈的憧憬の念熾烈なる時は、その精神甚だ高潔なるが如きも一方肉的渴望も亦猛烈にして、兩者の何れへも轉じ得る岐路にあるといふ個人的經驗に徵しても明かである。靑年の煩悶疑惑、その他すべての暗黑なる問題の過半は、性慾の事に關係を有せざるものは殆んど稀である。「家工の棄てたる石は隅の首石となる」。性慾も亦、之を順當に解決すれば、首石となつて、その上に肉的生活を築き上ぐる基礎となり、見事なる人格を建設する土臺たるを得る。されば世に道を傳へ人を指導するものは、此の問題を穢はしきものとして回避することなく、十分公明正大なる觀念を抱いて、之が解決を實現することを得ば、信仰生活の中に存する如何に多くの暗礁を除きて、宗教生活の船を安全に進行せしむるに至るは、容易に想像し得らるゝと思ふ。

□性慾問題研究の必要

若し出來得可くんば、此の問題に關して、外國に行はれてゐる樣な聰明にして且つ信據するに足る幾多の書籍を書き、現代の誤まれる性慾問題の害毒を芟除することは、基督教的見地より觀て、極めて大切なることゝ思ふ。然るに現時、我が基督教界は、靈の事にのみ重きを置きて、此の問題に關して毫も研究することなく、半可通の醫者と一夜づけの性慾學者として嗤ふ可き書物を刊行せしめてゐることは甚だ遺憾至極である。余は此點に於て、是非基督教的立場より此の問題の徹底せる結論を得んと努力せる一人である。何となれば性慾を考へずして、靑年の精神問題を考ふることは、全然不可能なるが故である。又靑年の靈的生活が完全に發達せんとするには、肉的生活の解決も伴はざる可からざるが故である。

靑年辯士の奮起を望む

四月二十二日、芝區三田統一教會に於て、今度は靑年ばかりの熱烈な演說會を開き度いと思ふ。廓淸會員にして默し難き熱情を有する男女は揮つて辯士として立つて頂き度い。一人の講演時間は十五分位づゝにして、なるべく多數の人の出演を得度い望みである。出演希望者は、來る十日迄に本部へ住所姓名と演題を記して御申込を乞ふ。（或は時日と場所に多小變更をするかも知れぬ）

四月一日　廓淸會本部

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廓清春秋

河合北洲

□花何を語る

花は櫻の春也。爛漫たる幕屋に、無心の講筵を開けば、招かざるの客、蜂來蝶集す彼等は何を唄ひ、何を舞はんとする乎。講筵の主人、元これ一粒の種子、一塊の土の寄食者のみ。彼、生活難の戰場に奮闘せば、足なるものは地水を征服して根據を張り、手なるものは風雨と戰つて、葉芽に空氣を呑吐す。向上進化、更に向上進化の幹枝は、花を開き、實を結ぶ花は年々の卒業式にして、實は事業の成功者也。

此花ありて此實なく。此實ありて此花なし。片々たる落花、榮枯盛衰の哲理を語れば、天地何處にか、有心無心の講筵ならざらん。我前に向上進化の師表あり。我後に實踐躬行の勇者あり。人にして拈花微笑の悟達なきも、克己復禮の禮服なくんば、花下當に天地の一大喝を喫すべき也。

□酒に醉ふもの

酒なくて何の櫻哉。門違の酒場信者は、花下に狂水を酌みて、意馬心猿に鞭つ、幕屋の聖壇に、何等の狼藉ぞ。一生の學年は長からざる也。向上進化の課程も少からざる也。優勝劣敗の競爭、固より容易ならざる也。此短期を以て、此重荷を負ひ、人生の戰場に上ぼる。聰明の智慮、鋼鐵の意思、頑健の體質、尚ほ足らざるに、麻醉、愈々脆弱を加ふるものあらば、一敗地に塗みれずとも、頓ては落陽を追ふて落行く、落伍の敗兵たるなからんや。

上下四千載、東西幾萬里、人類は自己の糧食を求め盡し、實驗し至れるものに靈の滋養あり、肉の滋養あり、以て靈肉の調和と健在を全ふせんとす。適度の滋養以上に滋養なく、必用の糧食以外に必用あらざるに、贅澤病者と彼の從僕は、濫りにアルコールを賞用せんとす、之れ正に自他の破滅を招くもの也。

避けなくて何の櫻哉

禮に始まり、亂に終るは、飲酒國の不文靈法也。既に猩々化し、青鬼化したるもの、獸慾に充血し、破壞性に興奮す、秩序何かあらん、友情何かあらん、家庭何かあらん、況んや、自己の身體、職業地位、財産の破滅をや。酒はサケ也。早晩裂かざれば已む能はざるもの、是れ酒の本色百藥の菩薩化して百毒の惡鬼たる者たらんとする者、悲劇喜劇を明暗の壇上壇下に演じて、一波萬波、重疊たるの波瀾は、警察、裁判、監獄の必要を要求し、增設し、擴張せざれば已まざらんとす。而して不飲の國民も、均しく重税を擔ふて、下戸の倉庫を建つるに遑なからんとす、豈又禍ならずや。

避けなくて何の櫻哉。毒を制すべきの毒は、宜しく醫師、藥局の高閣に束ぬべし、毒なき國民が之を手酌し、之を店舗に、庖厨に、膳部に横行せしむるに至つては、慢性自殺熱の流行を傍觀するもの也。これ志士仁人の拂ふべき所ならんや。歐洲の大戰は酒毒戰より露國民を救へり。嘗て勝利の國民たりし日本は、今や益々猩々界に落行かんとす。國家と國民は、當さに心醉と酒醉より醒むべきの時也。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

□淺間しき噴煙

火にあらざるに何の煙ぞ、淺間山の噴煙に似て非なる、更に淺間しきは、鼻下の煙突也。

人生、消閑の具を要し、精神轉換の法を求むるもの、平民的の便法に、散歩あり、入浴あり、談話あり、讀書あり、冥想あり、無害よりは寧ろ有効の方法尠からざるに、何事ぞ、鼻孔を煙突に代へ、呼吸の粮道と言語の關門を、代用してニコチン毒草を焚付けんとは。

大人は小兒の膨脹なれば、惡戰固より興なきに非ざるも、アメリカ、インデアン君の遺風に耽溺して、吸煙中毒の奴隷となり、止み難き奴隷性の奴隷となり、アブラハム、リンコルンの大雄斷に非ずんば、奴隷解放覺束なしとは、何ぞ弱武士なるの甚しきや。

小人閑居して不善をなし、手持不沙汰にして奴隷的自殺を戲むる、驚くべきは克己力の癡痺にして、惡む可きは隣人迷惑の煙攻也。

□花に舞ふもの

翩々たる花上の蝶、嬋娟たる花下の美人、恍として畫中の畫也。畫中の花にも蟲巢くひ。美人と、美人ならざるの美人にも病潜む、人類の遺傳病プラウドと云ふ。自己の何物かを誇らざる能はざるも疾患也。兒童は其翫具を誇り、乞食は其背振を誇り、病人は其病氣を誇る、誇りに服裝の誇あり、虛榮の病院、三越病棟の患者也。

病氣の發作は、觀劇に、旅行に、宴會に、而して花見に四十度す、觀るよりも觀られんと欲するの情熱に燃ふ也、楚々として孔雀の如く練行くを見よ。

驟雨一過せば如何、驟雨以上の大喝を聞かざるか、曰く『何が故に衣のことを思ひ煩ふや、頭上の櫻花を觀よ、いかにして育ち、いかにして美なるかを思ひ、ソロモンの榮華の極だも、其裝この花の一にも及ばざりしに非ずや』と。

花は自然の發揮也。花下の花は病熱の煩悶美也。流行の軟風に追はれ、情熱の瓦斯を燃して、煽動の車を驅る、其行く處や、以て察すべき也、曰く虛榮病院と煩悶監獄間の狂奔苦走なるのみ、患者たらずんば囚人たるの所願に、百度參りを捧ぐるものなるのみ。

□自然に還れ

悠々たる哉、宇宙。何物の手か一度霞の帷を開けば、日輪は殁壇に上ぼりて、秒又秒、分又分、萬象暗の眠より覺め、朝光の冷水に浴して、緊張の衣を纏ひ、生氣振一新せば、草木は草木の學課あり、禽獸は禽獸の課程に就く、人類も亦營々として生業に忙はしく、遊樂に焦心す、世界を得るよりも尊き靈性は、肉の塵に蔽はれて、將さに天地の化育に盲聾たらんとす。

日は昇り、日は沒し、雲は心なく去來し、風は自らの儘に吹く、自然眞、自然善自然美の自由境に、自己眞、自己善、自己美の牢獄を築きて、自ら萬物の長たるに誇るものは人類也。

學校の最上級は、森嚴なる夜の聖殿に神の聲を聞くに在り、神と自己を相照して同化するに在り、神と良心の命を執行して得る肉僕の訓練に在り、訓練の先達に東西の聖徒あり、奴隷の解放あり救主あり、有言無言の聲、相和して叫んで曰く、自然に還れと、自然に還るとは、蕩兒の歸參也。良心の落付也。天父の歡喜也。迷羊を尋ぬる牧者の嘆か、梵天風雨何ぞ淑々、落花何ぞ紛々たる。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

卒業の女學生を送る

文部大臣法學博士　高田早苗

　女子教育に就ては考へて居ない譯でもないが、私は今日迄餘り此方には携つた經驗は持つて居らぬ。

　けれども私が始めて海外に遊んで感動したものは女子教育であつた。歐米到る處日本に比して女子の教育が非常に盛んなのには、全く一驚を吃しない譯には行かなかつたのである。始めて海外に出ればどうせ赤毛布に過ぎないから、何をし見ても珍らしいに違ひないが、私をして最も驚異の眼をみはらしめたのは女子教育だつたのである。

　就中米國の如きは、何處の大學も半數は婦人を以て占められて居り、中には女子の方が志望者が多過ぎて、男子の入學者を段々收容しきれなくなつて來るので遂に女子の入學には制限を加へて居るといふ樣な處さへ幾つもあつた。

　勿論私は何事でも外國の眞似をしやうといふのではないが、教育の普及は誠に結構な事で、日本には未だ女子大學の設備も出來て居らず、入學志望者も少いが、近き將來には左樣にならなくてはならぬと思ふし、又必ずさうなる事であらうと確信してゐる。

　現につい此間迄は高等小學程度が女子の普通教育であつたが、現在では高等女學校程度が普通教育となつて來て居る。而して此女學校程度を普通教育とするのも長く續く事でなく、やがて大學程度迄進むやうになるに相違ない。

　一體今日の女子教育の方針は、申迄もなく良妻賢母主義であつて、此三月に卒業せらるゝ女學生諸君は、先づ現在の良妻賢母の資格を有せらるゝ者であるに違ひない。諸君はこれから家庭を形成つて良妻賢母となるのであるが、茲に注意を要する事は、世の中といふものは常に間斷なく進歩しつゝあるものであつて、過去の良妻賢母は現在の良妻賢母ではない現在の良良賢母はまた未來の良妻賢母ではない。諸君は現在に於ては充分良妻賢母の資格を有せられるであらうが、一尺先、一間先、一年先、五年先の良妻賢母ではない。良妻賢母は常に時勢に伴ふて進歩する必要がある。故に諸君が今後家庭を司るにしても、自分の子供を教育するにしても、現在學び得た丈で甘んじないで、常に智徳を磨いて、時勢に伴ふ賢母良妻たらん心掛を願ひたいと思ふ。(談)

最近の廓清運動（二）

△廓清會理事會

三月廿二日午後三時、青年會館にて理事會を開く、安部副會長は、近來男女學生の腐敗甚しきを慨して、市内男女各學校と聯絡をとり、自校生徒を懲戒すると共に本會を仲介として關係對手の學校に通告して其對手の處分を促す事を協議し、安部氏の手許にて案を作り實行に着手する事を決議し散會。

出席者は、矢島楫子、安部磯雄、山室軍平、内ケ崎作三郎、西村勘之助、山田彌十郎、守屋東子、伊東富士雄、伊藤秀吉の諸氏。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

米國に於ける醜業婦問題

ドクトルオブフイロソフイー 有馬純清

私が茲に説く處は、米國に於ける現時の醜業婦問題の極一部である。私は今より約八年前に米國大平洋沿岸に渡航し、シヤトル、タコマ、オレゴン、オークランド、カリホルニヤ等に行つた。そして米國でも到る處に、醜業婦が跋扈するのを見た。六年前にシヤトルの日本人町の中間に醜窟が設けられると、恰も肉に飢えた狼が、餌食を漁るが如くに、附近の男子殊に勞働者が其處に集り來り日夜の別ちなく淫蕩に耽溺し始めた。醜業婦連は公然と日中街路を横行濶歩してゐる、到る處の町の角には、バーがあり其バーには勞働者や其他の人々が朝から晩迄、唄つたり或は躍つたりして、さては千鳥足で、道路を迂路々々する結果巡査に科められたりする事件が頗る多い。如斯事實を目擊して私は非常に失望したのである。米國は最う少し理想がある國だらうと思つてゐたのに事の意外に驚かされたのである。米國中到る處斯る狀態が現出して居て、私は全く失望して了つた事があつた。

其後二三年にして、先づシヤトル市民が覺醒した。即ち斯樣に市內に醜業婦が跋扈し、此儘持續されるならば市民は頽廢せなければならぬとの廓清の叫びが起つたのである。これに反對の運動を起した者もあつたが、夫は醜窟の存在は市の經濟に至大なる關係の存するもので、勞働者が取つた金を市に撒き散さるゝものは其醜窟である。と云ふにあつて、夫が爲め市は繁榮を來し、其影響は市民の懷を肥すと考へたのである一體米國の勞働者は家を持つて居らぬ、而して米國の婦人は決して此等の勞働者に心を容さぬ、勞働者は一生獨身で行かねばならぬはめになつて居つて老年の獨身者が頗る多く其終りは養老院に這入つて安心すると云ふ恰も動物的考へさへ一部にある。故に市民は之を除却せねばならぬといふので茲に端なくも衝突が起つたのであつて、一方教會側では女抔も加はつて、醜窟存在に贊成する當時の市長に反對して盛んに運動し、一方廓清會のやうなものが起つた。遂に如斯激烈なる運動の結果は廓清が無論勝利を占めた。而して今迄存在した醜窟は俄に一掃されて其清淨の氣分が其處に滿たされた。然るに其反對者中には多くの日本移住者があつたのである。それはこれ迄醜窟によつて畢竟旨い汁を吸つてゐた爲で、元來日本人は常に醜窟のパン屑で其日を送つて居るが故に、非常なる恐慌を來したが、案外廢止された結果は何等影響を感じなかつたのである。寧ろ却つて生活の基礎が鞏固になつた。

然し乍ら之でも醜業婦は絶へない、橋の處に立つて客を引いたり、或はホテルに出入したり、或は外面普通の人家であ

つて、其實女郎屋の如き事を遣つて居ると云ふやうに、客を引いて盛に淫賣をしてゐるから、尚一層の取締をせねばならぬとレッドライトロウやストリートウーマンに對し近頃淫賣を行はせた家屋は之を壞ち、夫が外國人なら其本國に返すと云ふ事になつた。併し乍ら民主國の悲しさは人民の上に權利を振ふ事が能きぬから、思ひ切つた事が斷行されぬのであるが、男子の方も罰する事にしてあつて、時として三人なり十人なりに罰金を取つて追ひ散らすのである。故に恰も乞食狩をする如き事をやつて、兎も角一掃した事は事實である。加州で或る冬、刑事や檢事が客に化けてホテルに行つた處が其家の主人はお客樣と思つて待遇した、其が探偵であつた爲め、後で其主人が呼付けられ其罪を科められた處が主人は其樣な事は一向知りませぬと申立てた、併し乍ら其事實を握つて居るので、遂に女を使つた其一室を閉鎖せよと判決した。各地に於て此程迄嚴重に醜業婦を取締つて居るが更に近來見遁すべからざる傾向は酒屋を全部を廢せよ、所謂禁酒せよと云ふ運動が殆ど一年前に初つた事である。米國の西海岸に位するオレゴン、ワシントン、コロンビヤ等は最も其運動が激烈であつて遂に本年一月一日に禁酒法が實行された。如斯米國に於ては醜業婦問題は解決された。米國は黄金崇拜の國だと或人は云ふが夫は嘘である、否米國は理想を盛に練つて居る國である。實に米國は未來に於て恐しい國であると思ふ、市の繁榮狀態は理想に根本義を置いて、經濟を犧牲として來た爲め實に立派なものである。そこに潑溂たる生氣がある、充實した力がある、所謂醜窟等より受くる處の汚れた金によつてなら寧ろ繁榮しない方が良いといふ處迄行つてゐる。翻つて日本國の實情を見るに、私の留守の間に何が進歩したであらうか、只醜業婦が跋扈した丈である、我日本が一等國たる所以は此醜業婦の多い一等國であるといふ意味であるやうに思はれる。

醜業婦問題は形の問題ではない、質の問題である國民の實質の腐敗を象徴するものである。實に重大なる國家問題である、然るに東京の周圍は到る處醜業婦を以て包圍攻擊されて居る、先づ第一に吉原大森、品川、洲崎、新宿、芝浦等市民二百餘萬を此のバチルスを以て進擊して居る、淺草の十二階下には三千餘の人間が肉を賣つて居るが七八年前には全國を通じて料理屋が一萬六千あつたが今は三萬に殖へた、待合なども五百以上あるから驚かざるを得ぬ。日本は近來自然主義の實行期が來た如く見受けらるゝが、國民が特に快樂追求的な自然主義に趨り、其以上何も望む處なく且そこに高遠なる理想がないならば、人生は只破壞あるのみと思ふのである。殷鑑は眼のあたり彼の佛蘭西の如き、極意氣地ない國とならねばならぬ、佛蘭西の弱きは享樂主義に墮落したからである。

米國に金儲けに來た賣笑婦は大抵佛蘭西人であつた、今でもさうである、彼等の家庭はモーパッサンの小說にある通りである。米國で或る活動寫眞を見た、夫は佛蘭西の風俗を映したものであつたが、筋は斯うである。或る商店で女のタイピストを店に使つた、處が主人が其女と情を通じた、それを妻君が嗅ぎ知つた爲め大騷動となり遂に其女を出し、其結果或る條件が妻君から提出された。それは今後斷じて、女を使用しない、男子を使用する事になつて今度に男子を抱へた、處が今度は妻君が其男と情を通じたと云ふ筋であつたが、之が佛蘭西の國情である如斯狀態であるから戰爭が能ないのも當然である。其に引替へ獨逸の家庭の如何に堂々たるか、我々はたゞ感嘆するの外はないのである。我々は此日本をして道德的に理想の高い國民とならねば世界的に立つ事は能ぬ。米國は既に覺醒して居る、諸君が天下に輿論を興して社會人道の爲め、幾多の罪惡を一掃せん事を切望する次第ある。（廓淸會演說大要）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

子は何故寶なるか

法學博士 農學博士　新渡戸稲造

今を距る約二百年前ローマ國にグラッカスといふ賢婦人の手によつて養育された實子の兄弟二人が、天下の爲め犧牲と爲つて仆れた事は歴史上で我々が觀た處である。或る日此夫人の宅に近隣の貴婦人方が相集つて種々なる世間話を爲した末、婦人の事故、話が漸次發展すると自分達の貴重品の品評めを始めた。或婦人は指輪や頸飾や、或は亦金時計やダイヤ入の腕輪や其他の高價の品を各自に見せびらかして互に誇り合つた。これは勿論人を羨ませやうとしたに違ひはなかつたが其婦人中にありて獨りグラッカス夫人は夫等の品を手にさへ取らなかつた、唯單に『まあ結構な品です事』と、それすら顧る張合のない宛然仕方無しに褒めてやるんだ位の口振りなので他の婦人達は機嫌を惡くし反感的態度で夫人に向つて『何卒貴女の品を見せ下さい』と言ふと夫人は只モジ〱する許で何とも答へなかつた。そこで斯樣な寶杯は一つも無い癖に人の貴重品を手さへ觸れずに横柄な態度をして居て、醜態何の狀ぞ良い面の皮だと、弱身に突き込む小人根性とやら一つ困らしてやらうと、眼と眼と合圖をした數人の者は是非拜見と四方から詰め寄せた。此に於て夫人は『何に私の寶は別に大した品物ではありません、最う來る頃ですから來たら御目に懸けませう』と答へた。それを聞いた婦人達はハア、成程質屋にやつたので今取りに行つて持つて來るのだナと今度は嘲笑的の眼を閃々と見合つた。暫時すると『お母さん唯今』と二人の男の兄弟が外から歸つて來た。すると夫人は坊や〱早く此方にお出でと呼んで、『皆樣私の寶は之です』とさも得意氣の微笑を口元に湛へて云つたさうである。

何の由緒もない我日本國に迄もグラッカス夫人の名の轟く理由は、實に右の如き話からでも窺ふ事が能る。而して其兄弟が斃れる迄天下の爲めに盡したのは、啻にグラッカス夫人の寶とする已でなく國の寶であり、又世界の寶ではないか。

□　□　□　□

然し乍ら之と全然反對に世の中には寶を子と思つて居る者が尠くない。私が今から七八年前臺灣に旅行した歸途、或日或宿屋に泊つた。夜の十一時頃になると隣座敷にヒソ〱と話聲がする、未だ寢付かなかつた私は何氣なく其話に耳を傾けると、下女らしい話振の二人の聲（假りにお春さんとお秋さんとする）お春さんのいふには『まあ毎日斯うやつて旅に出て働いて居つて何が樂みかといふと矢張り生れ故郷を考へる事で、分けて辛い悲い時杯は若もお母さんが生きて居たならなあと思ふし、亦何か嬉しい事があつても、お母さんが生きて居たなら嘸喜ぶだらうなあと、何時でも妾は死んだお母さんを思ひ出して仕樣が無いんだワ』といふと、之を今迄默つて聞いて居たお秋さんは口を切つて『さう、其樣なにお母さんが戀しいの、其樣にお母さんが生きて居りや良いと思ふのですかね』と如何にも不審さうにお春さんに問ふた。お

花さんは其意外さに吃驚して、『おやお秋さんはお母さんが生きて居ては悪るいんですか』といふとお秋さんは『さうですとも〳〵妾お母さんが若も生きて居なかつたなら、こんな氣苦勞抔はせずに済むものを、生きて居る許に他人の手に賣られ〳〵て行く妾の身の上は、之もお母さんが死んで呉れたらと妾染々さう思ふワ』との會話。私は其話を聞いて成程と感心した。實際現今に於ける日本の教育は子は飽く迄子たる義務を盡さゞる可からずといふ方針であつて、親が親たる義務を子に盡す事を決してせず徒らに子を育てる事は、自分達が老いてからの食い扶知にするのだといふ考へ以外に子を養育する根本義がない、故に如斯悲惨事が世間全體至る處に横はつて居るのである。お秋さんの考へは、寔に當然であつて同情してやらねばならぬのである。子を宛も郵便貯金の通帳のやうに心得、幾歳になると何十圓だ抔と金錢的に考へる事が、軈ては子をして賣品同様の何の價値ない人間として了ふのである。

□ □ □ □

之等は實に子が寶なのか、夫とも寶が子なのか薩張り區別が能ぬ次第である。一體寶と云ふ事に就ては我國でも高砂の爺さん婆さんが、寶のお山に行つた抔と昔話にも遺つて居るが、眞の寶の意義は決して金錢を以て如何とも爲し能はざる物で、徒らに大金を投せしも品物故に夫が寶である抔といふ事は間違ひも甚だしいのである。私の家には先祖傳來の寶がある。夫は土器の徳利と盃の二つが桐箱の中に納められてある丈で、之を價格に見積れば實に僅なもので取るに足らぬ品なれど、然し乍ら私に取つては夫が迚も金錢に換へられぬ品である。他人は夫が三文の價値ないと笑ふとも、私には大切な寶なのである、彼の神社佛閣等も矢張幾萬を費した其建築物は何の意味もない、其中に鎮座する處の御神體の如何が問題である、價が五錢であらうが又塵一本でも敢へて問はぬ、只其御神體が金錢を以て如何ともする事の出ぬ由緒ある處が、貴いのである。指輪抔でも左様で、如何に大金を投じた金剛石入の物でも、僅に眞鍮で作つた粗末な指輪乍らも二十年前にお母さんが嵌めて死ぬる時に之は妾の片身だと遺言されて譲られた物とは、何方が大切な寶であらうか、寶たる所以は實に其處に在るので、他人から觀れば何でもない品物が其人に取つては離す事のできぬ由緒ある品が眞の寶といふ可きなのである。

□ □ □ □

昔奴隷制度の存在する時代に、アフリカ等の國には子を賣買する市場があつて現今に於ける魚市場や青物の市場等の如く盛んに賣買が行はれて、男子の良い方で百五十圓から二百圓位、亦女でも別嬪ならば三百圓位、おたふくで二百圓、扁眼で五十圓位、抔と大抵時の相場に依つて、牛馬同様に其時代の人間は凡て値段が付いてゐた。夫が漸次文明の域に進むに從つて人間は決して物品と同視す可きに非ずと覺醒し、而して今日の如き状態に變遷され來つたのである。話は大分横道へ反れたが寶は家から離す事が絶體に能ぬ、夫が無いと如何しても一種物足りない心細さを感じて氣が何となく落付きがない處に寶の眞價があるのである。昔一軒の水呑百姓があつた、子が多い處から地主が子がない爲め幸ひ其百姓から一

人の子を貰ひ度と話した。百姓は早速親族會議を開いて子を呉れやうか何うしやうかと計つた。すると或一人が『夫は實に旨い事だ、這麽に子があつて今の處食ふに困る折柄、去年の小作料抔も滯つて居る始末だもの、一人位は呉れた方がよい、小作料は棒引きになる譯だし、今後も御親類となつて巾が利く譯だ』と云ふ處から呉れる事に一決した、ではといふので妻に相談をして誰を呉れたら良からうといふ事になつた揚句、子供達が寢てから定めやうといふので寢るのを待つて、さうして提灯を點けて妻と二人で小供の寢顔を覗き込み乍ら極め初めた。先づ第一番に太郎、之は總領で後繼ぎ故遣る譯には行かぬ。次は次郎か次郎は腕白だからなあ他家へ行つては手の付けやうが無いだらうなあ、では三郎か三郎は如何も身體が弱くて自家でなきや育つめいよ、では四郎か四郎は此頃漸く學校へ行き初めた許で未だ西も東も知らず、おトー〳〵……と可哀想だからなあ、いつ子かいつ子は總領娘だから女一人位は家に居ないと何かと困るから之りや遣る譯にや行くめい、ではむつ子か之も未だ漸つと歩き出してから間もない事だし又いつ子に變があつた場合は困るから之も遣る譯にや行くめいよ、ではなつ子が之も未だ乳離れしないからなあと誰も彼も遣る譯に行かず到頭皆やめたといふ話がある。寶は之だ、之が眞の寶だ。

如斯他人から觀れば之等は何でもない事ではあるが、其本人になつて見れば右の樣な事はさもある可しで、如何しても夫が無いと不足を感じ、淋しくて、物足りなさを覺ゆるに違ひなのである。丁度三度の食事と同じ事で腹は一杯で餘り食ひ度はないが、併し食はぬと物足りなさを感じて仕樣がないのと少しも違ひがないのである。

□　□　□　□

彼の有名な加賀の千代子の俳句に『蜻蛉つり今日は何處迄行つたやら』といふのがある。實に夫だ『あゝまあ今日は何處迄行つたのだらう……餘り遠く行つて若しや堀の中にでも落ちはしまいか、夫とも亦怪我でもして今頃は可哀想に泣いて居るのだらうか、早く歸つて呉れゝば良いが、まあ如何して歸つて來ないのだらう』と、其案ずる心は實に他人の推し測る事の出來ぬものがある。

私の親戚の嫁さんが昨年の夏小供を連れて溫泉へ行つた、すると二三日經つて戻つて來て了つた。其處で親達は不審に思つて『一體どうして其樣に早く歸つて來たのです』と聞くと其理由はこうである。『私の泊つて居る宿屋に妙な婦人か居る、其婦人は妾と此兒が便所に行けば後から來て、凝乎と兒を見て動かぬ、夫から又庭に出ればまた其處に來て此兒を穴のあく程凝視る、散歩に出れば後から眺めて居る、其凡ての態度が如何も普通人ではないやうで、氣味が惡くなつて到頭逃げて來ました』との事であつた。而して其婦人は二三年前に兒に死なれて夫が爲め遂に兒を思ふ一念からヒステリー性に陷つたのだといふ事が判つたといふ話であつたが、寔に同情に價す可き事で、之等の話を只單にお笑草的に一笑に附す事は斷る氣の毒な次第であると思ふ。實に寶の意義、子は何故に寶であるかの眞の意義は姑にあらうと思ふのである。故に子は愛情以外に何物をも以てすべからずで、如何程注込んだから如何程の金高になる抔といふ事は斷じてならぬといふのである

何ぞ女供養をせざる

廓清會評議員　角谷和市

大正五年二月六日夕刊萬朝報の噂欄にかう云ふ記事が掲げてあつた。

『曩に新佛教の毛利氏が和歌山縣會で、當局の野犬撲殺方法を難じて、犬の爲めに萬丈の氣焔を吐いたが茲に又新潟の新井佛教婦人會では、撲殺犬の爲め盛大な犬供養をやつた△其時の岡田諦賢師の弔文が振つたもので、昨今教界の一作話となつて居る、近く東京でも此催しがあるさうなが、其文の大要に曰く△一切衆生必有佛性とは如來の金言、狗子にも佛性あり、然れど一佛性中理性の正因を有するも了縁兩因を顯現して業苦を解脱する事が出來ぬ、自他覺行圓滿の佛と成る事難く、惡因縁の深きに沈淪して畜生となり狂犬となり、人に噛み人を斃す其害毒の猛烈さ△一犬毒牙を齧つて畜犬に傳染するや其毒の蔓延は容易に防ぐ事が出來ぬ、官爲めに人命の保護の上より殺倒す其幾千萬なるを知らない、我が頸南地方のみでも五百頭に餘る、可憐の情なからんや△殊に闇愚の幽魂復た宇宙に彷徨して更に惡獸毒虫に惑生し、世々累劫人界を惱ますもの、恐くて自損々他の罪業盡くる時がない△是に於てか他力回向の慈悲を仰ぎ成佛得道の善縁を受けしむる所謂仁禽獸に及ぶもの　如是畜生發菩提心とせ」

此等の作業は動物善待の心得を現はさうとしてゐる其心理は嘉みすべきであるが。死んだ犬の爲に供養したとて何の爲になるか、生きてゐる犬に供養することそ大切なれ。且此岡田諦賢とか云ふ僧侶の弔文によると、犬の此世に生を受くるは、前世の惡因縁によるとし、又後世に、其幽魂は惡獸となり毒虫となると云はる。是佛教中の小乘教即ち凡夫を教ゆる權教であるは勿論、輪回說の舊式を取られて居る様である。新派では、輪回は此世に於ける心的禍福を指すとせるが如し。新文明の空氣中にある現日本人は、かゝる迷信を承認すべきか。又供養の事であるが。之も隨分迷信の分子が含まれてゐる。佛教では、三福田、八福田、福田などゝ云ふて、佛、法、僧、父母、貧者などに供養し、福因を植うべき田地を說ひてある。即ち嶮路に義井を穿つ、橋梁を架す、險隘を平治す、父母に孝養す、三寶を恭敬す、病人に給事す、貧窮を救濟す一切の魂魄を救ふ法會即ち無遮會を設けたりすることを云ふ。敬田とは、三寶を敬し、恩田とは父母に供養し、悲田とは貧苦者に供養す。一を功徳福田と云ひ、二を報恩福田と云ひ、三を貧窮福田と云つてゐる。諸者に供養すれば、福徳を生ずること、田地の物を生ずるが如くなるが故にと云ふのである。此福田は何れも仁愛を之に勤むるのであるが。其實は支那や印度やの幸福主義に妥協した功利主義的倫理を說である。純正な獻身的な非實利的道徳を害することになるのである。更に供養其物は如何。佛教辭典にはかう書いてある。

三寶または死者の靈などに、身口意の三方法を以て物などを供へて廻向すること。之に敬供養（堂舎の裝飾などすること）行供養（讀經禮讃などすること）利供養（飲食衣服などを進むること）の三種あり、又三寶に供養するを佛供養、法供養、僧供養と云ふ。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

佛教では、高遠な汎神哲學では、俗人に不可解なところから、假作の方便說を設けて、一は凡人救濟に勤め、一は其善德、供養を進めしめて、社會にも僧侶自らにも便する樣にしてある。純理計りでは、佛教の維持が出來ない。基督教が純理を始から終迄說いて、一切方便を用ゐないのとは、天地雲泥の差である。是佛教國に僞が行はれ、基督教社會に眞實が行はるゝ所以である。してみると福田の說、供養その事が假作であり、僞教であり、迷信である。無智者、無教育者の信ずべき宗教と彼等からが許してあるのである。

根本的倫理なしに、風教の向上は六ケしい、見よ佛教の盛大な地藏國や暹羅國やを。又日本の佛教の流行地を見よ。二十年前に我友は北陸道全面を旅行した。彼等は佛教を信ずること極めて熱心、友が基督者たるを知るや、宿屋を夜半に放逐されて露營すること屢々であつた。道伴の人も、友が耶蘇信者たるを知るや、絕交される幾度かと云ふを知らず。友は遂には、基督者たるを告白するを嫌ふ弱い心が生じた。しかも、佛教の盛んな程私生兒が多い。彼等には兩性間の純潔の貴ぶべきを解さない。良家の女は、寺の妾として献納されつゝあつた。一種の采女であつた。我廓清運動の如きは、彼等の嘲笑する處であらう。

此犬供養の如き其愚や論ずるに足らざる事ながら、同じ迷信でも、彼等が間接に作りつゝある賣笑婦の爲に、又其の爲に苦しみつゝある者のために供養したらよからう。多少其惡風の矯正にもなるであらう。佛教の盛んな京都、名古屋、新潟縣の如き處から、一番多くの賣笑婦が出てゐる。新潟縣の高女生すら或客を取りつゝ、しかも廻しを取りつゝ（數人を客として）學校に通ふものあり。多くの女は他邦に賣笑業を營みて、金を持歸り男を養つて國に死するを榮としてゐると聞く。しかも其多くは病毒の爲に死し、又は養育院に養はれつゝあり、又現業中の者は、良家の平和を奪ひ、幾多の寡婦や孤兒やを作りつゝあり。即ち男が賣笑婦に迷ふが爲に、本妻を離緣し、其子を繼母の逆手に生育させ、其子をして純然たる不良青年不良少女たらしむること多し。左なくば其妻をして自殺せしむ、これのみならず其親族一同をして、冬野の寂寥を感ぜしめ、賣笑のために笑ひは幾多のホームから取去られるにいたる。我國家庭の恨事いかに多きかを見よ。妻は夫の虐待を受け、女中以下の取扱を受け、其子女は母に對する尊敬を失ひつゝあり又は脂粉の裝せぬ妻が、藝妓や女優やの風に化せしとみるや、其半面には必らず良人の放蕩の潜めるありである。或は妻子の衣服を典して、娼婦の一笑を買ひつつある痴漢もあり。又之を一國の上より見れば、國の能率增進法の甚だよろしからず、二流三流の日本たるも覺束なきは、其因は遠く、此賣笑婦問題にあり。之なしに良家庭生き、之ありて良家庭殺さる。引ひては國の亡びともなる。羅馬國の死、東洋諸邦の死、亦之によらんか。豈徒に犬の死をのみいたまんやである。供養さるゝ犬若し魂あらば申しませう犬の供養にかへて、此等賣笑婦の爲に供養せよ、賣笑婦の爲めに亡ぶる家庭の爲、社會の爲、國家の爲供養せよ。否かゝる賣笑婦を作る其縣の佛教の爲、佛教自らの爲に供養せよと。（五、二、一五稿）

青年女子の諸問題

日本女子大學々監 麻生正藏

青年女子の問題は三の方面の觀方がある。第一は教育家か又は其父母なりから研究する事、第二は兒童研究者か學者の立場より觀る事、第三は青年女子自身の側から研究することであつて、第一及第二は實際問題であり第二は理論的學理的問題である。私は單に父母が教育上から見て此問題に觸れて、夫で話したいと思ふ。勿論此實際的の立場からでも學者の研究を待たなければ充分なる研究を遂ぐる事が能ぬけれども、亦之を常識的に說明せればならぬものである。

女子が八九歲になると、今迄男女の區別のない狀態から反對に區別を意識してくる。而して十一二歲頃から春氣發動期に入つて遂に區別が益々劃然と自然に制定される事になる、私は春氣發動期から成熟期の到達する迄を話すのであるが、此時代は生の發展に伴ふて著しく身體と精神に變動がある、從來見なかつた處の極めて不可思議な現象が現はれて來る、之を女子に取つての第二の誕生とも云ふのであつて、此時に初めて女子の眞の資格が、精神上にも肉體上にも確然と現はれるのである。これは女子の特徵とする處で男子には斯うした大變動は見る事が能きぬ。處が此時期には身體の各系統が各部分的に成長を遂げ身體の中にも亦精神上にも發達はするが、然し乍ら情緒と理智との發展は漸次相伴はれなくなつて來るので、其處に問題の根本義があるのである。畢竟夫自體の發展は只單に感情のみを發展して、意思は夫と比較して甚だ進まぬのである。

其處に兩方面に互に一大動亂が生ずる譯になるのである。何故なれば、青年といふものは經驗が頗る淺薄である處から其感情と相對抗す可き處の理智の發展即ち精神に於て動搖を感ずる。而して平和が茲に破壞されて今迄夢見る如き精神は忽ちにして、大旋風の渦中に投ぜられた樣な狀態裡に在らしめらるゝのである。故に平和が亂れる結果は勢ひ種々なる事件が惹起されて其處に間違を生じて來るのである。身體の方は十二歲から十六位歲迄で終るけれども、精神的方面は十二歲から廿一二歲位迄も消ゆる事なく、經續されて惱まされる。是等は要するに生の發展で相連關し持續する處の變動が現れるのであるが、其處が種々なる問題の生じ來る原因なのである。殊に此問題が甚大なる關係を有する處の自個意識が現はれると其反面に他人を意識する、即ち社會意識が現はれて、其處に男女關係が初めて現はれ來るものである。而して其自個意識といふものには獨立の考が出る。即ち自個主張である。男女の別があるのは、軈て夫が問題を惹起する背景となるのである。

□ □ □ □

其處で第一身體に關する自個意識問題は、私の觀た處では第一は衣服問題であつて、實に女子に取つては、大切な極めて重要視される問題であり、生命の次に位する處のものである。衣服の爲めには本人自身許でなく母親抔も我を忘れて迄も其問題に沒頭し模樣がどうの縞柄がどうのと大分苦心するものである衣服に對する趣味は概括して二種に別ける事が能る夫は女子の氣質に依るは勿論の事で自負心の強烈な女子は成可、多數人の注意を惹く樣な派手な物や流行物を着飾る樣にする、それと反對に極めて內氣の女子は地味な物を好み凡ての物が人目を避けやうと努めて居る。而して前者は所謂他人からお轉婆でおしやれで、後者は女らしい奧床しい氣風に見える。

第二は容貌問題である。女子は兎角十一二歲迄は男子と餘り大差がない、手が汚れやうが顏に泥が着いて居やうが更に頓着せないけれども、十四五歲前後になると自然に男女の區別が現はれて、男には十一二歲其儘の氣質で進んで行くが女子は其時代になると、誰も敢へて干涉せずとも、獨りで手を洗ひ髮を櫛づり、實に見違へる程獨りで磨き上げる。夫等は女子の生の發展の然らしむる處で、本能であり亦女子の生命である。誰しも女子に容貌の美を望まぬ者は無い筈である。容貌は女子に取つて實に由々敷問題なのである。故に夫から見ると親から遺傳された處の人並ならぬ容貌を持つた婦人は實に可哀想である、女子は夫が爲め如何に心勞するか知れぬ。親を怨み我身を惱ち遂に自殺する例は枚擧に遑なき程である。僅な吹出物さへ非常に心配するのが婦人の情である。

如斯女子は衣服の爲に心を勞し且又容貌の爲めに心を勞するものであつて、此二者は婦人にとつては實に大問題なのである。女子の浮沈の問題は一に此容貌如何にある。結婚の如きも容貌如何が第一

の標準である。如何に學あり才あり德ありとも要するに眞の情は容貌の如何が結婚の最大條件となつて居る事は、私の知つた範圍内に於ては事實である。之等は要するに男子が容貌の美を要求するから、勢ひ斯る狀態に至つたもので、私は女子が其要求に應ぜんが爲め、種々苦心を爲して容貌を美にするといふ事は女子其者に幸福を與ふ處のものであらうと思ふ教育家は之等の事に厚く同情せねばならぬのに、年頃の娘に一定の制服を着けさせなければ女子教育上に或る至大の欠陥が生ずる抔といふ事は、私は考へものだと思ふ。多少年數を要しても女子の精神上に於て、女子自身が取る可き道を理解するに努めればならぬ。私は教育者諸氏が啻に規律風儀形式に拘泥して女子各個の内的教育に顧みぬ如きは大に熟慮を要する。

□　□　□　□

第二に精神的の方面を觀るに、元來女子は矛盾生活である。近來は亦其度が激しいのである。假令ば泣くとか笑ふとかゞ凡て極端で、夫が青年女子の特點である。自惚と悲觀も極端で、人に何か賞められたりするとすぐに天狗となり、輕蔑されるやうな事があるとすぐに悲觀する。他人の非難抔を頻に氣にする働が現はれるのは獨り女子許である。女子には自個主張と盲從とがある。夫が何れも極端で人に負けるのを非常に嫌ふ心と、人に依賴する心、即ち英雄を崇拜する心抔はそれである。故に女子には案外固苦しい宗教心を持つた者が多い。次には利己主義な處がある學生抔には殊にさうで只自分の爲めにのみ計つて他人の爲めに餘り思はぬ傾向がある。假令は何を仕たい彼を仕たいと思ふ然し乍ら夫が反對になると急ぐ悲觀に陥る事がある。さうかと思ふと女子には任俠心がある、人の病氣の爲めだ抔の如きは自分の身を忘れて迄盡す傾がある。之等も女子の特徵で、看護婦が女子の職業に適するのも矢張其任俠心の然らしむる處である。之等の諸點を綜合して教育家や父母は如何に此諸問題を取扱ふべきかが。實に女子教育の根源は實に茲に存すと云可きであると思ふ。

一體女子の性質には一般に社交的と孤獨的との二樣の生活がある。前者は社會に乘出して專ら男子の活動の次に位す可き事を爲し、後者は一室に籠つて默想するとか、自然を愛するとか書物を耽讀するとかで、種類に依つては大變な問題を惹起する事があるのである。凡そ之等の事は青年女子が自ら意識するものでなく、自然に出て來るものであるが、之と反對に自ら意識して居つても其問題が圓滿に解決せぬ者がある。第一愛情問題である。之が亦非常に苦心するもので、假へば學生間で同じ着物抔を着て喜んで居る者がそれだ、併し乍らかういふ友情は一二年の内に忘却されるしまふものである、處が茲に忘却されない愛情がある、それは異性に對する愛情であつて、西洋では此の男女戀愛が極めて自由に認められてゐる。我日本では從來其と反對に、人の前で此樣な言葉さへ使ふのも厭ふのであるが、西洋では既に學校に於て其戀愛關係に關する手紙の書方を堂々と敎へて居る程の狀態である。故に我國の男女兩間の愛情の交換が制限せられて居るに反し、西洋では自由である。然乍必ず公の場所でなければ不可ぬ。人の目に觸れぬ處抔は斷じて許されぬのである。斯樣な事を見て而して之を日本に其儘施すとならば、忽ち間違が生じ易いので、實に目今の狀態では解決が着かぬのである。故に之等を解決せんと欲せば先づ根本的に其策を施して而して學生間の自覺を待つ事にするより他に講ず可き方法がないと信じて居る。

□　□　□　□

次に結婚問題であるが、實に女子に取つては之以上の大問題がなからうと思ふ。世には隨分此問題を冷靜に加も對岸の火災視するものもあるやうであるが、夫等は燒けての後の火の用心で、一旦は必ず其問題で精神を惱ました事に相違ない筈であると思ふ處が此問題は青年女子に取つて、誰彼の差別なく早晩到來す可き問題であるけれども、然し乍らユーゼニツクス上から觀るなれば强ち結婚後に耐ふる丈の身體を持たぬ婦人は結婚をせぬ方が却つて、其自身も亦國家の爲めにも良い事と思ふ。且つ結婚して夫の下に燻つて居るよりも、より以上の技倆を持つて居るものなら寧ろ結婚しなくも良い、却つて人類社會の爲め嘉す可き事だと思ふが、其處迄の超脫した青年女子が居るか居らぬか夫は私には判らぬ、兎に角無理に結婚を爲さればならぬ病弱の女子は考を其處に持つ可き事が大切であらうと思ふ、

動もすると女子が財產と結婚する場合があるけれども、之等は實に危險極まるものである、勿論夫等の心情は一は女子の本能からでもあらう哉。多少は理智の判斷に據られば甚だ危險な事と思ふ。次には技倆、手腕で結婚する女子がある。併し乍ら手腕には往々にして辣腕があつて頗る怪しい者があり、夫が爲め意氣相投合する事なく遂には悲觀する時代が來て、初めて目が醒めた抔といふ氣の毒な者がある。次

には人格に依つて結婚する女子にも不幸がある。學究理も煙草も呑まぬ、そして何處となく沈着な態度で殊に人格の高い方だと思つて結婚すると、豈計らんや其男は手腕もなければ技倆もない、極めて能なしであつた事を悔ふ場合もある。次に腰辨と意氣相投合して結婚する女子、之等は極て細く長く稍幸福な部類もあるか、近來腰辨が頗る幸福でなくなつた樣な感がある。次には何々學士抔といふ肩書に據つて結婚する女子は、之れまた往々とんでもない學士があつて、やお米も味噌も皆お前の家から持つて來い、厭なら打擲る抔と散々苦める者がある。次には爵位であるが之も亦元より不安である。

如斯理智より判斷して直に其是非曲直か識別されるのに之が間違ふので、世間には結婚は殘酷だ杯と盛に憤慨する女子が居るやうであるが、勿論夫等は家族の關係周圍の事情や其他複雜した處の物がある爲で一概に左樣論斷する事は能ぬのである。從つて女子は近來舅、姑の居らぬ結婚を仰望する傾向がある、女子許でなく其親も斯る觀念と希望とを持つて非常に心配するが實に最も甚だしい考へで、其舅姑といふ者が實に結婚に就て目の上の瘤視して居るから、結婚しても餘り良い感情を持たぬ。而して意志の衝突からして種々な詰らぬ事が針少棒太となつて行くものであつて、其女子が次の姑になると矢張其觀念が或る程度に懐かれ常に循環されて行くのであつて、徒らに舅姑を嫌ふやうな事は結局青年女子の前途に傾ては不幸を齎らす動機となるに至るのであるから、決して之等の問題は忽諸に附する事が能ぬものであらうと思ふ。故に教育家たる者も夫等に就ては責任を帶びる事にせねばならぬのである。而して幸も不幸も凡て自分が細工するものであると云ふ觀念を確乎と懐かせ、自分が切り除くる精神を培養發せねばならぬ。

□　□　□　□

次に宗教問題であるが之は我日本國には餘りに重要視されて居ない。凡て我國の青年女子には十七歳以上廿歳にならぬと宗教問題が左程必要と思はれぬ處から、閑却されて居る傾向があるけれども、之等は甚だ當を得ない事だと思ふ。勿論私は學校生徒を指すのであるが、何れの宗教でも其芽を從來の方法の樣に摘切らずに、益々培養する樣に先生たる者は意を用ひねばならぬのである。どうも我國の宗教は生命的に解することなく、只單に形式的に流れたが、之からの社會は實のある宗教の發展を祈らなければならぬと思ふ。次には教育問題であるが、勿論教育の主旨は自個向上の目的であるが、女子大學抔へ入學する婦人に其理由を訊くと、何うも女學校では安心が能ぬ、何が故に不安心であるかは知られど、何うもある確乎とした物を捉へれば不安心だと大概左樣申して居る。要するに強い力のある一人前になりたいと云ふにある。之等は向上の然らしむる處に其起因が存するに相違ない、謂所自個發展に就て大切な問題であるから、元來女抔は教育が餘り無い方が良い抔と獨斷的に主張する輩は大に考慮して欲しい。

次は職業問題であるが、元來女子は頗る割の惡いものである。然し乍ら昔と違つて職業を取るか否かの問題と違ひ、今日は何を執るかと云ふ問題に逢着して居るので、強ち男子が云ふ處の女等は職業抔をせず、家庭にあつて家政を執り子の教育でもすれば夫で事足りるものである云ふ事は時代遲れの考へである。何故なれば、方に於て生活問題に急迫せられ他方面に於ては向上問題に突撃される結果職業が必要となるに至るのである。併し生活問題が主となる事は今更茲に喋々を要せざる次第である。元來女子には重大の責任がある女は家を支へる事と自分を支ふる運命を持つ中で現今の如き世活難の急激に押寄せられる社會の趨勢となつては、殊に其方面に於て要視されるやうになつたのである。假へば夫が病氣になつて糊に困窮する場合等には是非とも之に代る可き處の、經濟の基礎を握つて居らぬと頗る世渡が不安となつて來た。只內職と外交的職業即ち外部に出て働との區別の問題は、勿論內に在つてそれ相當の事を爲せるに超した事はないが、それ等の事は極めて悠長なる事で、今日の如き切迫詰つた社會には如何とも詮方がない次第なのである。女子は內に居ると愚になるものであるが、亦出樣に依つては夫以上の弊害が醸されるから、其程度が問題になつてゐるので之等は周圍の事情やら其者自身の境遇やら、家庭の狀態等から綿密に亘つて考慮せねば判斷が出來ぬ。

最後に娛樂の問題であるが日本では餘り此方面が研究されて居ない、一體娛樂には女子の特用の器具や亦は男女相用の物等が萬般に亘つて一々擧げて之を說明する事は出來ぬが、現今の娛樂と觀る處の物は書籍と一般學校で使用する運動用具等である。併し人は娛樂から墮落するもので注意す可きであるが、殊に女子は娛樂から墮落する傾向が一層酷いのである。(講演大意)

身上相談

離婚の相談を受けて

江南生

（問）私は本年廿八歳にて去る大正二年二月現妻を娶り同三年二月一女を上げ、只今にては一家三人にて毎月の收入は平均貳拾圓位に候、本年一月迄は何事もなく生活し來り候處、御はつかしき次第なれ共妻儀他人様より少々愚鈍なる性質にて、世帶向も下手にて親共の氣に入り申さず（尤も娶る時は親共の撰擇にて）離婚せよと申し候。加之本年一月頃より首部（耳の下方）又足部等に腫物出來、附近の醫師大學病院等に診察を願ひし處、遺傳性梅毒にて却々癒り難く例の「サルバルサム」も其効なしとて注射せず、（尤も高價なる點も有之候て金子調達困難）只今にては日々膿汁出で寔に見苦しく相成手當の費用も日々入りて、生活も困難となり候故今日にては妻と子供を妻の家に預け候。私の親共は此際離縁の致し時也と益々私に迫り申候。此儘なればば到底末の見込立たずと申候、私は殆ど去就に迷ひ申候離婚せばよき樣なれど妻に氣の毒なり、此儘なれば末の見込立身の望難く候。

（答）御境遇眞に御同情に堪へず左に御答申上候。

▲第一『妻儀他人様より少々愚鈍なる性質にて世帶向も下手にて親共の氣に入り不申離婚せよ。』とあれど、之は全然離婚の條件にはなり申さず候。親の意見は最も有力なる參考とすべきは勿論なれど理非に拘らず服從すべきには非ず御夫婦の結合離散は夫婦御互の心にあるべき筈にて親の干渉を妄に許すべきに非ずと存候。況んや親の撰擇によりたる場合の如きは一層親としては口を出す資格なき者と存じ候。離婚の道德的條件は姦淫の場合のみに候。若は離婚が双方の希望にて且つそれが必ず幸福なるべき場合に限るをと存候。

▲第二『遺傳性梅毒にて治療に道なし』。之れ誠に御氣の毒千萬にて殊に妻女の上に滿腔の御同情を捧げ候。遺傳性の梅毒と云へば申す迄もなく親または祖父の不品行に依るものにて、廓淸會の必要が玆に痛切に表はれて居る事に御氣を注がれ度候。即ち親又は祖先の不品行が何も知らぬ娘の身に報ひ來て、飽きも飽かれもせぬ仲を割かれ生くるに甲斐なき境遇に陷らんとしつつあるを思へば、如何に不品行の恐るべきか目前の事にて、娘御、即ち貴下の妻女に對して慰むるに辭なき程御氣の毒を覺え申候。されば遺傳性梅毒が治療の道ありともなくとも要するに貴下の妻女たる以上、貴下は滿腔の同情を灑いで其の哀れなる身の上に同情し、看護し、慰藉さるゝ事をこそ心掛けらるべく、治療の道なしとて抛り出すが如きは不道德の甚しきものに候。假りに之を地を換へて貴下に左樣の禍の來りたるものとして考へられなば此際に左樣の疑問も起るまじくと存じ候。一體結婚離婚を借りたものを返すが如き考へを一般世人がしてゐるが大なる間違にて、既に夫婦となつた以上女は歸るに家はなき筈に候。即ち貴下と一體同心となりたる筈にて外國にては妻の事をベターハーフ、即ち自分のよき半身と申し、キリスト教にては夫婦の者二人にあらず一體なりと云ふてゐる次第に候。然らば其半身が病になりたりとて之を何處にか返し申すべきや

▲第三『此儘なれば末の見込、立身の望み難く生活にも困る』とあり、併し乍ら第二の意見をよく〳〵御玩味あらば第三も自ら分るべく妻子を捨て、われ一人の立身を圖るなどいふ無法なる行爲の道德的に許さるべき事なりや否や明白の事に候。妻君と共に生活に窮するが人たるの道に候。

若し夫が病氣にて困る。いつ恢復するか分らぬ故妻は夫と子を捨て、他へ嫁入せんといふ女あらば、貴下は之を如何に見らるゝや。問題は夫と少しも變りはなく候。妻が病氣にて困る故逐出して己の立身を圖らんといふが如きは、實に亂暴なる行爲にこそ候へ。

▲第四『夫婦仲には既に子さへある由』之れ最も大なる問題に候。既に子供がある以上、夫婦の意見のみにて離婚をする事は出來申さず。必ず子供の意見を同じ程度に尊重せねばならず候。乍併子供には分らず自ら意見を主張するを得ざるが故に子供になり代つて子供にとりて何れが幸福なりやを公平に判斷してやらねばならず候。斯樣に考へて來れば離婚が斷じて三人の爲め均しき幸福に非ず、幸は貴下一人にして二人の者を暗黒の深き谷底に投げ入るゝものなる事を了解せらるべく離婚の不道理十分にして、之れを法律上よりいふも妻君より損害賠償及び慰藉金請求の告訴をする權利ある事と存候。

▲第五『サルバルサムの注射も其効なし』との事なれど小生は直にそれを信ずるを得ず候『金子調達に困難』との文字あり、即ち貴下はよろしく克己精勵出來得る限り貯金し充分醫療を盡されなば或は恢復の道絶對になしとは限らざるべきか。

▲冀くは諦然大悟せられ貴下の運命なりと達觀して、不幸にして左樣の惡遺傳を有する者を娶つたるを自ら不明とし此の上は自己の半身たり且つは第二の吾たる我子の母親の病苦を慰藉するに努めて最善の努力をせられなば假し立身なせずとも神の前に如何ばかりか尊かるべくまた自ら慰むるに餘りありと存候。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

天鼓の響き

宗教家の任務

番町教會副牧師　緒方庸雄

昨年春より夏にかけて、余が大阪にて傳道中、年齢四十歳前後の一婦人、四五歳位いの娘子を連れ夜の説教會に熱心出席してゐた。言語動作共に何となく上品の様子あれ共顔に不安の色讀まれしを以て、余は何等か曰ひ難き匿れたる悶えを懐ける婦人なるべしと想像をつけてゐた。然るに其婦人の家に余が訪問、傳道回を重ぬるに從ひ此婦人が淋しき、頼み少き境遇にゐることを知るに至つた。或時彼女は辭し去らんとする余が袂を曳き止めて、涙ながらに己が過去の生涯の秘密を語つたのであつた。

其話に依ると、良人は元大阪の名ある商店の支配人なりしも、店の金の自由になるに委せて、遂あらぬ道に迷ひ入り大きい穴を店の帳簿にあけた爲めに某店解雇の已むなきに至り、妻子と共に九州に走り、更に上海に渡り事業を企てしも成らず、再び大阪に逆戻りを爲し、ミシン職を營みしも面白からず、失敗の結果妻子を大阪に殘し置き、再度上海に赴き今日にては音信も殆どなき有様なりと。夫との間に三人の子供あり。長女は十八歳にして九州某地にて藝者奉公を爲し、長男十六歳にして、他家に在りて繪畫を學びつゝあり、次女五歳にして、母の手許にて養育されつゝあり。如何にして生活しつゝあるかと問へば、唯藝妓なせる長女よりの月々若干の仕送りに依り、且つは頼み難き海外にある良人の成業を待ちつゝ生活してゐるとのことである。之を聞いて余は且つ驚き且つ悲み、自ら額に汗して働きて活くることの誠に尊きことを説き聞かし、又一方己が實子を身賣りして其子よりの送金を甘じて受くることの人の道に背けることを説き一日も早く彼女の救濟を勸告し及ばずながら、家事の相談に預からんことを以てした。

其後其婦人の實弟の助力に由り、九州より大阪に愛子歸れりとの報を得、且つは其娘に面會して、余が勸告希望の成就されたるを喜びし甲斐もなくして再び其娘は大阪にて身を賣られんとするの悲運を聞かされた。之全く婦人の實弟の奸策に出づるを知り余は其娘を同伴して大阪婦人ホームに林歌子女史を訪ひ三人鼎坐之が救濟策を講ぜしも複雑せる家庭の事情と母と娘との決心鈍かりし爲め、彼女は再び慘酷なる毒手に渡さるるに至つたとのことである。而して彼女の母は余が注意せしにも係らず、其後良人を頼りて上海に渡航したと言ふことである。今二月一日手にしたる娘よりの一書を左に記して彼女の苦痛と悲境とを察する栞としやう。但し文字も文句も原文の儘である。

去年九月二十七日東京川の御手紙をいたゞきましたきりでその後私も御伺ひもいたしませんでした。いたゞきました御手紙は御大切にして居ます。上海の母の方よりに先生樣方へ、とき〴〵手紙か、はがき、まいりますでせうと私方へはついたときのはがきと年賀状だけ、その外母上よりは一本の手紙もハガキもまいりません、父よりは弟省三のことたのむと云ふ手紙一本きたきりです、ほんとうに實父母とは思へません、いろ〳〵人さんに話されぬことがありますのですイカニ私は二歳の時他人へ渡したとはいへ、その父親の死去なされた後は父母のために二度までも苦界に身を沈めてまでつくして居りますのにまだ弟のためにいろ〳〵と世話をさしておきながら私より父母にむけてウチヲノいろ〳〵のジジョーのことをたづれの手紙出しましたも返事もくれませんのです。先生樣にこの話をいたしましたらびつくりなさいますことはきまつてます、ほんとうに親なれどしみ〴〵あいそがつきましたです。先生妾は身はかなしきドロ水くらして居りまするがいゝいゝいゝいゝいゝいゝいゝいゝいゝけつして〳〵むまではドロ水にはそまらぬつもりで

ゝゝゝ居ります今までは母へ毎月々々金を、おくりましたがこんどは弟へせねばなりません、できるだけのことをしてやるつもりで居ります、弟は朝日新聞の野田九浦先生の元に行つて居ります。……先生私は小さき時からのことを話せば、とても手紙には長くつてかかれません、いづれ二三年の内にはきつと先生の元に、まいりますからその時にくはしくお話いたします私大正七年の五月に年がアキマスその節はそちらへまいりますから、よろしくおたのみ申ます先生様の外たれ一人私の身についてシンジツ物事を云つたりおしへたりしてくれます人はありませんみな、おじおばとて金錢のよくの世話こそしてくれてもまことの世話は一寸してくれません私できるだけのしまつをして一日もはやく足を洗ふつもりして居ります、たよりなき身の上ですから世話な妹をもつたとおぼしめしていろ〳〵な學問上のこと又はその外人間の正直な道のことなどおしへて下さいたび〳〵は御存じの身の上ですから手紙は出されませんからあしからずおぼしめして下さい私十日ほど風をひいてせきがひどくねつが出ましてのどがはれまして休みました只今はよくなりましてヘタライテ居りますから御安心下さい私先生様よりたよりする人ありませんのですから、かはいがつて下さいましね…………。

余は數日の後、大要次の如き返書を認めて、彼女の許に送つた。

（前略）御手紙にて只今の御身の上承知致し心より御同情申上ます。御兩親は、ほんとに、實の父母とも思へない人なることを知りました。己が子供を賣りして、その金をもつて自分等が氣樂な、くらしをしやうといふこと又たとへ氣樂とまでゆかずともよし切迫した急用に使ふとも、それは大へん間違つた考へにて、昔はともかく、大正の時代にては人非人と申してもよい親の罪惡なのであります。又大切なる「神の殿」とまで基督敎で尊まれてゐる、己が身を賣つて親のために、つくすといふことは、一面孝行のやうに見えますが、又一方からいへば之も大なる罪惡であります。何故なれば、人の身體は、物品同様賣買の出來るものではありません。人の身を賣ることそのことが、大なる罪惡なのですから、罪を、をかして孝行も何もできるものではありません……ただ〳〵小生は御身が、道理をわきまへざる親をもちて不幸なる境遇に生れたるを、あはれに思ひます。一日も早く足を洗つて片氣な眞に幸福な生涯に入る折のくるのを待ちます。

「心まではドロ水にはそまらぬつもり。」との心がけまことにけなげに、たのもしく、心ひそかに感服いたしました。どうかいつまでもその心にて御くらし下されたく、神さまはけつして御身の如き、まごころをもてる正直なる人をすて給はずと信じます……

彼の女の手紙の中にあらゆる問題――社會問題、道德問題、宗敎問題等が含まれてゐるではないか。實に彼女の家庭のみならず、昔ながらの誤られたる道德舊習に囚へらて、苦しき慘酷なる生涯を送りつゝある婦女子、今日如何に數多きかを思ふて轉々嘆息に堪へざる次第である

新しき酒は舊き革嚢に何時までも容るべきものにあらず、我等は宜しく、イエスの如く、明治時代の遺物なる舊道德を破壞して、新道德の行はるゝ新時代を建設せねばならぬ。又我等は彼女の如き苦境に陷らしめたるは其兩親の暗愚と無恥と私慾とに依るものなるを認むると共に、如斯苦界にまで身を落さずして、他に活き得る救濟の方法機關の完備せざるは現在社會の欠陷にして、社會の責任といはなければならぬ。我等はイエスの如く眞に貧しき者貧しき者の友となりて、窮乏の家庭を靈的と共に、物質的に救濟するの法を案出しなければならぬ。

最後に、既に苦界に沈める者に對する我等の態度である。我等は妄に彼等を罪人呼はりをしてはならぬ。彼等とても多くは、自ら現在の仕事を、正道に叶へる者立派なる者と思つてはゐない。「身はかなしきドロ水でくらして居りますが、けつして〳〵心まではドロ水にはそまぬつもりで居ります。」とは彼女の告白である。此の向上の念のある限りは人間は救はるゝ望みがある、イエスが稅吏、罪人と交り、彼等をいたはり、救濟せし如

く、今日吾人は再來の基督となりて、心ならずも罪惡の世界、暗黑の境涯に沈倫せる幾多不幸の人々の慰籍者、救濟者となる事は我々宗教家の急務ではあるまいか

獨逸魂と大和魂

廓清會江東部會幹事　家田作吉

工業は云ふ迄もなく、生産の事業なり、何等權謀術數を算するを要せず唯正直と熱誠を以て之が製造又は製作をなし且研究的態度を以てそが改良進歩を圖るにあり、吾人は我が國運發展の爲めに此單調にして而かも絶大の價値を有する工業の隆盛と發達を祈らざるを得ず。

夫獨逸は非凡なる精力と回復力を有すと稱せらる。今回の戰爭に於て世界の一般が從來認めざりし獨逸の精力を認めたり、惟ふに戰爭後に於ても其の非凡なる回復力を以て總ての方面殊に工業の方面に於て突進するを認めざるを得ざるの時機あるべきは火を睹るよりも明かなり。

されば將來東洋に於ける我が帝國工業上の大敵は、英にあらず米にあらず、將た佛墺にあらずして實に獨逸なりと云はざるべからず、英國の如きは其の製品の堅牢精巧なるに於て、或は世界に匹敵なかるべきも、其の價額頗る高價にして東洋人一般の生活程度と嗜好とに適せず何れも比較的精巧にして而かも廉價輕便なる獨逸品を歡迎するの傾向あり、故に我帝國の工業家は東洋に於ける大敵として此獨逸と戰ふの覺悟を有せざるべからず。

近時我國に於ても歐州戰亂の影響と刺戟とに由り工業の勃興顯著なるものあり、東京京阪其の他至る處に於て工業會社の増築及び新設を見ろ、吾人は之を祝福すると同時に、數年の後に於て此工業界に於ける一大革命の時機あるべきを豫想せざるを得ず其の時機は即ち獨逸が凡非なる精力と回復力とを發揮して東洋に突進するの時なりとす。

誰れか工業と修養と何等關係なしと云ふや、社員職工の人格の高下と性質の良否は、其製品に驚くべき反影を與ふるものなり、予の先輩に製絲業者あり、試みに精神修養的の職工と然らざる職工とを區分して製絲に從事せしめ、之を驗するに其の製品に偉大なる差違あるを實證したり。その活ける經驗談を聞き今更の感に打たれたるとあり、宜なるかな晩近一般工業會社が職工の修養問題に注意するに至りたることや。

我が廓清會の天職は、公娼廢止の如き私娼取締の如き幾多の高貴なるものを有す、然しながら我帝國をして眞に發展せしめんと欲せば大に工業方面に奮勵努力せざるべからず而して男女職工の純潔なる德操を養成し、其人格を向上せしめて始めて堅牢精巧なる優秀品を製出することを得るなり、我が廓清會が嚮に鐘ケ淵紡績會社の京都工場内に於て同會の分會を組織して講演會を開きつゝあるが如き、又近くは東京モスリン會社に於ても同工場内に於ける修養會に廓清會の幹部員を聘して、其の講演を聞くの端緒を開きたるが如きは是れ實に同會社の爲め又は社會國家の爲めに賀すべきことなり。

吾人は多くの工業會社が我が廓清會の如き純潔高尙なる目的を歡迎するのみならず、血あり涙あり力ある幹部諸氏を歡迎して其の使用する男女職工の人格と德操を養成し以て優秀なる製品を出して彼の世界に於ける強敵たる獨逸と戰ひ最後の勝利を博するに盡力せられんことを熱望せざるを得ず。

たが罪

山根菊子

四五年前の事でした。郷里の萩に居りました頃、或一大事件が起りました。兼て小學校の時代より、同級生で机も一つに並んで、朝夕學びの道に進んで居りました友は、不幸にした父は中途で、今迄なした職業を止めて、聞くも怖しい『女郎屋』を開業致しました。其頃の友は、時々客との對話、他の女郎の苦しみ杯を面白く、且つ平氣で語りました。聞くものは半分氣の毒に、亦半分面白く思ひまして、遊ぶ時間等には多數集つては、其話を聞いて居ました。同じ机に並ぶ私は、外の友よりもより多く聞く事が能ました。遂には氣の毒に堪へませんで、友の次第に恐しき淵に沈み行く有樣を見まして、忠告をしたり、又は其境遇より救ふべき道はないものかと考へましたが、良い工夫もなく、あはれな友は高等小學校第四年の二月頃退學致しました。まゝしい仲の母親と、道も知ぬ父親の中に育つ友を、只笑ひもの丶種としては、忍ばれませんでした。泣いて私は袂を分つたのでした。

夫れ以上の恐しい問題は起りました。夫は後に之等の業者は、みな或淋しい土地に一所に、かたまつて住む事になりましたが、私の家とは近くなりまして、其爲、當時醬油製造業を開いてゐましたので、夫等の人々が店に來て、買つて行つてゐましたやうです。

其仲に私の忘れむとして忘れる事の能ない一人の女郎が厶ゐました。夫は寒中にも拘らず、浴衣一枚に素足で、下駄も穿かずに毎日のやうに、買ひに參りました。雪ふる日には、臺所に來ては、火鉢の側に腰打ち掛けて、涙乍らに語る事を聞きますと『お客が附きませんから、いつも打たれたり、叩かれたりして、三度の食事も頂く事が能ず、二度頂く時にも大根の漬けたので、ほんの端を出して貰ふ許です、之此通り身體に生傷の絶へた事がありません、只今も痛みます』と申しますので、私は祖母と共に、其處にあるものを食べさせて『お前一人でも、夜逃げて行けば良いではないか、ぬけてお逃げよ』と申しますと、淋しく笑ひ乍ら『そんな事しますと、直ぐ捕つて後は又ひどいめに會はされます。その貸金のある内は、何處へも行かれません』とあとはいつも涙をこぼして居りました。友は其恐しい主人の娘なのです。私どうか友に忠告がしたいものだと、時の至るを待つてゐました。私の家の前に折々は友の姿も見へますが、何だかはづるところあるかのやうに、顔を下にして通りますので、度々言葉もかけそこないました。

するとある日のこと私が淋しい町を銀行さして參りますと、折よくも向ふからその友が參りましたので懐しい昔語りの末友は私の切ない忠告に答へて『私もいつもさう思ふのですが、何しろ父親があゝいふ人ですから、どうしても出る事が能ません、私はもう合はす顔もありません』と如何にもやるせない樣が、その卑しい風姿の中にも、指を觸るゝことのできぬ誠といふものゝ、あることを見ました。

僅の時間で私も、僅の言葉を以て申して置きまして銀行にまゐりますと不思議にも、其友はいつの間にか銀行に來て居ました。友は公の場を憚るのか、顏を見られまじとするが如く、人の中にうづまつてゐました。私はどうして茲にあの道から來たのであらうかと、それのみ不思議に思つてゐましたが、四五日後に新聞によつて、初めてわかりました。友は其日か翌る日でしたか、金を手にして下の關までにげたのださうです。けれど惡魔の父親は、警察の手を經てまた引戻しました。之を讀みました私は先日私と別れて直ぐに決心をして、銀行に行つたものと思はれまして友の心情を察し、思はず同情の涙を落したことでした。

其後或日のこと、一人の客がまゐりまして、昨夜女郎殺しがありましたと云はれました、而も其女郎は、彼の哀れな蒼い顏をした女でありました。昨夜雪の中に跣ませて、獲物を以て其主人と外の妾と、娘と三人で、打つて殺したので、之から裁判になると聞きまして、如何なる事かと、氣づかつて居りましたが、友は決して、さやうな酷い事はせぬに違ひないと一人で同情して居りますと、山口裁判所で愈々五ヶ年の鐵窓の生活を言渡されました。

昨年の夏古郷に歸りますと其友に久濶に會ひました。明治天皇、遠くかへりまさぬ旅に御幸ましまして、爲めに定りの年限よりも、早くかへることが能まして、今では仕立物を開業して居りまして、父親も母親も娘も仲よく暮して居りました。

＊　＊　＊

『廓清の聲』今私の心に、机上の梅香と共に床しく匂ふて居ります。私は永へに廓清會員となります。

盥水も枯れて來ましたから之で筆を止めます。

盥水はかれはてぬとも廓清の
水は汚物を洗ひつゝさむ

長野縣下特に須坂中野長野の各支部會員諸彥に寄す

愛泉子

私は只今長野市に住する勞働者であります、先般メソヂスト敎會に開催されました廓清演說會に末席を汚しまして油谷理事、伊藤先生の熱心なる警告を靜聽して心を打たれたものであります、私は其場で入會したいと思ひましたけれども過去の罪惡があまりに大きく、廓清會員となる器でないと決めたのでありました、而し歸宿して考へてみますと、過去といはず現在といはず罪を認めて悔ゆるだけでは眞の悔改ではないと思ひます、進んでそのために全身を獻げ盡してこそ神樣の御心だと信じました、この度はそのために鬪へたのであります、翌朝は未明から職業に携るべく遂に伊藤先生を訪ふことが出來ませんでした、然し默して居るにしのびませんので決心して諸君の驥尾に從ひ會員となりました、如何か弱き私のために同情と鞭韃を加へ賜はらんことを。

信越線の汽車にお乘りになつたかたは上田の前に坂城驛の在るのを承知せらるゝでありませう、彼の驛前に今尙巍然として大製裟の言ひやうだけれど三層樓が聳へて居ります、あれが旅館とでもいふのであるなればこの上もない町の美觀を添へらるゝのであるが、寒心に堪へないのは遊廓なるとであります何處の國に停車場前にこのやうな魔屈がありませう長野縣は敎育が普及してをつて他縣に劣らぬといふて人も賞讚し、自らも許して居りたり今も尙公々然と營業して居るといふことは實に慚愧に堪へぬのであります、大なる恥辱ではないでせうか、先年移轉問題が起つて有識者間には論議せられましたが今や閉息の止むなきに至つて居ります、何たる悲しいことでせう、我が長野縣に於ける廓清會は生ぶ聲の第一着手として坂城遊廓を移轉せしむると同時に廢止せしめればなりません、血あり涙ある我が廓清會諸彥よ、勇奮苦鬪しやうではありませんか。

廢娼の根本解決

前田正次

私は未だ廓清會なるものゝ詳しき事情は知らないが、過日知人から入會しては如何とて勸誘を受け、廓清雜誌二月號を買求めて見ると、同誌上伊藤江南氏の「數字上より觀たる全國各方面の風數狀態」の各項目に就き拜見するに

區別	明治四十三年	大正三年	經過年數	增減	一ケ年平均增加數
全國の娼妓	四八、七六九	五二、〇九七	四個年	增 三、三二八	八三二
同藝妓	三七、〇三八	四四、四六九	四個年	增 七、四三一	一、八五七強
同酌婦	三三、九五六	四四、一九九	四個年	增 一〇、二四三	二、五六〇強
藝、娼、酌總計	一一九、七六二	一四〇、七六五	四個年	增 二一、〇〇三	五、二五〇強
貸座敷	一〇、七九三	一一、三七四	四個年	增 五八一	一四五強

右の如く僅々四ケ年間にも斯く莫大なる增加を見る、右は其年々の現在人員ならんが此の內に死亡者及び廢業者のため減少と而して補充する新規加入者等有るべきにより、個人別の總人員は多大の增加なることは想像に難からず、而して廓清會の創立は明治四十四年なりと云へば廓清會の努力の形跡は那邊に及びしものか疑はざるを得ず、今假りに現在員をして（大正三年の現在員に就て述ぶ）淫を鬻ぐ者全部（其鬻くの方法及び名目を區別するの要なし……）を根絶するに、總員十四萬七百六十五人をして每年確實に三千人宛減少せしむるも實に七十年餘を要す（時々の新規加入者の數と死亡及び廢業者の數を相殺すると計算して）統計なるものは過去の實際の有樣を顯表せるものなれば何人と雖も之れを動かすを得ず、然るに前述の如く年々增加し居るより見れば其理由として決して廓淸會の努力の足らざるに非ず、其方法の謬れるには非ざるか著眼點の異れるには非ざるかと考へられる。

故に結局は全國總人口（大正三年の）五千二百九十一萬一千八百人の內男二千千六百六十五萬七千二百人に對し女二千六百二十五萬四千六百人を正式結婚により配偶せしめ差引四十萬二千六百人の獨身なる男子の處置を付けるにありとす、是れは滿二十歲位より以下と五十歲以上の年齡の組にて按排し割當て其中間年齡の男子女子は悉く配偶者あらしめば一夫一婦の夫婦以外には淫を鬻ぐ者一人も無く、又妻以外に女に接するの男子は一人も無なに至るべし。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

熱血紅淚

■Y・K・生君（吳）　吳を去る東方二里の地に廣村（戸數二千六百四十二）と云つて明治四十三年二月廿五日模範村として時の內務大臣平田東助閣下から賞與金壹千圓を授與せられ、夫が爲め全國各地よりの觀察者が陸續と來訪され當役場に備付の芳名錄には既に壹千名を越すの盛況である。處が今吾廓清會より之を觀るならば、之等模範村でも廓清す可き餘地がある。元來廣村には基本財産の潤澤で、租稅滯納等は耳にする事の能ぬ程一般に經濟狀態が好調であるけれども、一方廣村の男女間の關係等の如き風紀問題は、實に紊亂極つて居るものがある。今其論證を擧げて見ると先づ梅毒では、男五十六名女四十四名下疳男十七名女十三名痳疾男五十一名女十五名合計百九十六名の花柳患者が居るといふ事である。而して此調査は如何なる方法で如斯數字に現はれたかといふ事は知る事が能ぬが、兎も角右の數字以上に該患者が存して居る事は想像に難からぬのである、斯樣なる模範村といふ所ですら男女間の關係は斯樣である、之を觀ても日本の男女間の關係は如何に亂れて居るかゞ窺はれる。我國の模範村も今一つ此男女といふ事に就き廓清せらるでないならば眞實の意味に於ける模範村と云ふを得ないと思ふ。

■林哲彌君（長野）　主にありて敬愛する伊藤先生、廓清會の事業に御奮鬪下され喜しく存候、ことに先般長野市に御開催、熱辯を謹聽この上もなき欣びと強きを感じたるものに御座候。歸路、貴會の機關雜誌『廓清』をいたゞき夜更くる二時まで愛讀益々その事業を助くる一員に加り度決心と覺悟を致したるものに候願くば薄信の不肖を今より一員に加へられ度切望に不堪候。愛する先生よ、その時直ちに加盟の契約をなす筈なりしも、信仰は日々薄らぎ獸肉は餘へ加へて靈の貢祈に苦しみつゝありしため、即座に悔改めの證言を立てるに至らなんだのであります然し、斯くある可きにあらざれば進んで貴會のために十字架を負ふて神によりて、勇往邁進致したいと祈り居候、弱者のために御祈り下され度候。

■林正善君（諏訪）　愈々當地に支部を設立する心算に有之候三月中に支部を設立するに足る人員を得四月上旬發會式を致度候先般信州方面へ御出張の折御立ち寄りを願はざりしを惜しく思候。左の人々に雜誌を送り被下候左の五名に候（略）尙支部設立につき同志の友を得るに最もよきは雜誌を見するにあり候貴會にもし古雜誌があらば數部御恵送被下度候半定價以下にて御頒ち下さらば夫れも苦しからず候。

■太田淚月君（山形）　紙面改良、會費値上は毫も異議無之候各地熱誠なる會員諸兄姉の御奮鬪病床に臥す一微分子たるに子も欣喜に堪へざる次第に御座候前々號編輯後欄會と會員との關係云々に就ては小生の如き弱輩は赤面の至りに御座候。而し春風に嘯き萠出づる新芽と共に病床を蹴て再び立ち微弱乍らも全力を傾注致し度存居候

■田中正實君（岩見澤）　前略牛込方面新年會に於ける對論に就て小生は全然曾根正藏氏の「先づ公娼問題に全力を傾注す可し」との意見に贊同仕る者に御座候實に廓清會の成立の由來を思へば何人たりとも之に對して異論ある能はざらむと確信仕候會費値上の由詢に止むを得ざるものとして首肯するの外なからんか本道に於ては目下夕張、俱知安等に遊廓設置の議起るありその理由とする處は畢竟「公衆衛生のため」といふに歸着致すやう見受けられ候亦札幌區の遊廓移轉論再燃致し居候之は贊成に候

■村田經年君（淺草）　前略今晚伊藤大尉訪問下され廓清の快談神に感謝致し候（中略）小生も益々奮鬪致度候に付贊助員と相成運動致度候亦今度三名丈け紹介すべき新會員出來候私は淺草小隊員をして全部廓清會員たらしめん事を祈候神は私をして早や四人の會員を作る事を許るされ候何大正三年度の廓清合本一部求め度前以て申上候

■君島利君（若松）　每月御送付の「雜誌」有難拜讀仕居候當地青年男女學生の風紀に近來非常に墮落致居候處夫々各學校の當局者等の熱心なる盡力に依り追々改善致されつゝ有之候。近來當市としては實に立派なる建物出來申候然し乍ら之は淸風樓と申す料理店の支店にして玆に當市の所謂名士と呼ばるる大方歷々が、當市の風致を害する場所に用ゐつゝあるに至つては遺憾至極に被存候。尙近來活動寫眞の常設館が續々建てられ各學生をして益々墮落せしむるより他に何等の効驗を認め難く候然し之も亦夫々當局者の留意する處となりたるは、幸甚此上なき次第に有之候

■中里正次郎君（埼玉）　二月號編輯後の記事痛切に其必要を相感申候寔に吾々會員は記者足下の昔の如く今更其冷談なるを恥入者にて候如何に本部にて社會廓清に全力以て勇戰奮鬪するとも今の如く多數會員の冷淡にては其效果或は三分の一乃至五分の一に終るや圖られず候會員諸君記者の言ふ迄もなく益々愛會的精神を起し本部と聯絡提携を計り今年末迄に是非一萬人の會員に達せん事を希望致す者に候（天は自ら助くる者を助く）との諺も有之候はずや諸君一年一人紹介は難事に御座なく候會員紹介は實に樂しき事」にて候尙會費云々に就きては會費支拂如何により本會の消長に關するや切實にて候諸君六十錢は愚か一圓迄も支拂ふべき勇氣を起し續々納付し本會の活動を御援助せられ度何の家にても何れの會にても何れの國にても費用なくして立つ可きや如斯記事掲載は會員各自の辱と覺悟せられ度

■冰水君（徳島）　三月號「嫁と姑との問題」を讀みて……。ア、彼の女にして「忍ぶ者は幸也」との教訓の信仰ありしならんには己れと愛兒の命を全ふし姑をも義しき常識ある相愛より成立せる結婚に何ぞ離婚の要あらんと存じ候小生は以前に不信者なりしとき離婚の悲哀を經驗せし故而して今日理想を實現しつゝ、樂しき家庭を營み居る故を以て斯く信じ申候（恥し乍ら告白致し候）我が國の婦人をして逆

境と戰ひ艱難に克つ男子的勇氣を持たしめざる可からず教育家先づ覺醒せざる可からずと存じ候宗教家も亦大に責任を感ぜざる可からず殊に佛教の未來觀（哲學なき信仰のみを指す）は自殺を安息と思はしむるに至りしことを正直に速に改悔せざる可からずと存候」醜業廢止を講ずると共に一方彼等にパンの道の備を講じ遣らざる可らずと被存候彼は共等の理想的ならざることは承知乍らも生存の必要等上詮方なしに甘み居るもの十中八九と存じ候小生諸方（關西）巡廻彼等と親しく語りその眞想を察し申候廓清の成就を奉祈候

●●●

■佐藤いそ子君（下谷）　益々社會の爲、人道の爲御奮鬪常に有難く御會諸君に感謝致居り候。今後皆々樣御自愛御自重の上御活動偏に願上候。

●●●

■島袋德加君（沖繩）　內地と遼隔の沖繩は聊も娼妓救濟の聲を聞かず、教會ありと雖も遊廓廢止の聲なし　斯かる際に神命は吾に下り雜誌廓清は千里の波を蹴つて吾が茅屋を飾る。沖繩は血と火の宗教を最も極めて要求せり、伊藤先生よ沖繩五十萬民の爲め御祈り下され度願上候。吾人若年に拘らず神の爲め家の爲め縣民の爲め悲慘なる姉妹を彼の境遇に置くに忍びず、接齒扼腕以つて彼等を救濟して眞に大正國民たらしめざる可からず。戊申詔書に忠實業に服しと娼妓が怠らずして熱心に業に服すあゝ此より不忠なる擧動何處にあるか吾人は遊廓の存する以上は高諒なる我が聖上陛下に對し奉りて不相應の臣民をして世界の一等國たる國民の資格を存せざる、娼妓業なるものを斷絕して初めて陛下の赤子たり得と悲憤して止まず沖繩支部の設置の一日も早やからむことを祈りて寢床に就く。

●●●

■木藤冷劍君（豐橋）　本會員は只今到着したる廓清誌三月號を一見するに會員たる「千葉縣」の杭木幹君の熱血を聞くに藝妓排斥運動をなせしに警察より差止められたりとあり。又大正五年新年號の武狹世界の香川縣の一讀者は本會員のなせるが如き運動をなし警察より三日間の拘留に處せられんとし叔父の盡力に懲戒歸宅を許されたりと憤慨しつゝあり。是と同樣なる事三回の岡崎出張によりて發見せられたり、一月號の廓清記載の如く本員は岡崎へ分會設立大運動を起すべく手はこびせしに私の同志たる者は目下岡崎にありて名古屋社官西三附錦社員なるが先般本會員宅に來りし豐橋警察署高等刑事若林氏なるもの來り本會員と共に運動を試みんとせる友人に對し刑事は其父祖に訓戒し父祖より其子たる友人に左樣なる事を爲す可からずと訓戒せられ親の言ふ事ではあるし困つて居る而し私の友人は君程ヒドクはやらぬが柔かにやつて廓は樓主連を攻め立てると言明せり。之に對し本會員ヤサシイやり方ならばコッチから斷ると答へたり。尙廓（岡崎取締）龍川鶴島の兩樓主を訪問せしも兩樓參詣不在而會出來ず遺憾千萬なりき自由廢業案內を數冊新聞社へ寄贈し置けり。右の如き有樣にて寔に困却是までしても警察は本會の事業に邪魔を入れ度きものか、困つなものに候。夫より額田郡板屋廓詰本庄巡査の痛快なる廓攻擊青年放蕩諫止運動なせし事役便に報道可致候。

編輯之後

▲本月は會員諸君の寄稿投書が可なり多くあつて非常に愉快でした。今後も續々御投稿を願ひます。今月載らなかつた分は大概來月に載るものと御承知を願ひます。尙、岐阜縣の森泉治郎氏、豐橋の木藤冷劍氏の二君から多治見遊廓の登樓券事件について御報道下された事を感謝します。どうぞ誰方も各地で起つた種々の風敎問題に就ては御報道の勞を吝まれざらん事を願ひます。

▲山室大佐の『娼妓三百人研究』は果して到處好評で大切な資料として歡迎されました。伊藤江南氏の數字上より觀たる風敎狀態の續篇は、二十六日に大演說會を開いたので、氏は編輯と演說會とで忙雜されて今月に間に合はん事になりました。併し既に木版屋にやつてあるのですから來月號には出ます。

▲本年は何となく廓清會も發展の年やらに思はれてならないのですが、どうぞ會員諸君は各自にいつも申上ぐる「人一人運動」を會員たるヂューチイとして是非御實行を願ひます。そして各地で會員同志の講話會をなるべく多く開くやうにして頂き度いと思ひます。本部からも出來得る限り辯士を送るやうになる筈です。

▲それから演說會を開く度に思ふ事ですが、會場で會員募集などを致します時に、いつも手不足で困ります。どうぞ會員諸君は御都合のつく限り御手傳に來て戴き度いと思ひます。

▲益富理事の病氣は追々快方に向ひまして、もう十日以內位に退院の運びにならうと思ひます。會員諸君から御懇篤なる御見舞狀を頂いて感謝して居られます。

▲會費の增額が如何なる影響を來すであらうかとは私共の密に憂へて居たる處でしたが、殆んど何等の影響が今日迄になかつたのは、誠に愉快で、僅な增額は會員諸君の主義なり抱負なりと別交涉である事を知つて、感謝に堪へません。

▲たゞ郵便集金の返戻が相かはらず可なりあるのは誠に殘念で、少額の會費を何遍も手數料を拂つて集金するやうでは全く困りますから、なるべく御注意下すつて、出來るなら振替口座で、集金郵便ならばお留守でも頂けるやうに致したいと思ひます。

▲曾田作氏は事務員ではなく一寸二ケ月ばかり廣告部の方を手傳ふた事がありますが窃取、詐取橫領等あらゆる不都合を働きました。今後も會名を利用する恐れがありますから御注意を乞ふ。（小林生）

大正五年四月一日納本（每月一回一日發行）
大正五年四月一日發行　一部定價金七錢

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　神田區三崎町三丁目一番地　上村龍之助
印刷所　神田區三崎町三丁目一番地　博信堂印刷所
發行所　芝區三田四國町二番地廓淸會　廓淸發行所
電話芝五八五五番
振替東京二七〇七二番

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY